

## ダニエル・アーシャム

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.danielarsham.com/>

Instagram : [@danielarsham](https://www.instagram.com/danielarsham)

1980 年、アメリカのオハイオ州クリーブランドに生まれ、フロリダ州マイアミで育つ。2003 年、クーパー・ユニオン（ニューヨーク、アメリカ）を卒業。2007 年、建築プロジェクトユニット Snarkitecture をアレックス・マストネンと設立し、美術館等でのインスタレーションやパブリックアートの制作、ファッションブランドの店舗設計などを行う。個人の創作活動では、「Fictional Archeology（フィクションとしての考古学）」をコンセプトに、立体作品、ペインティング、パフォーマンスなど、幅広い表現形態で作品を発表している。ポンピドゥー・センター（パリ、フランス）、ギメ東洋美術館（パリ、フランス）、カタール国立博物館（ドーハ、カタール）、ウォーカー・アートセンター（ミネアポリス、アメリカ）ほか、各国のパブリックまたはプライベートコレクションに作品が収蔵されている。また、Dior とのコラボレーションやポケモンとのアートプロジェクトなど、アートの世界のみならず、ファッションの世界においても大きな注目を集めている。

### 略歴

- 1980 アメリカ、オハイオ州クリーブランド生まれ
- 2003 クーパー・ユニオン（ニューヨーク、アメリカ） 美術学士取得
- 2007 建築プロジェクトユニット Snarkitecture をアレックス・マストネンと共同で設立する

### 主な個展

- 2005 「Homesick」 Galerie Emmanuel Perrotin（パリ、フランス）
- 2009 「Set design for Merce Cunningham Dance Company's Paris Performances」  
（パリ、フランス）
- 2015 「Remember the Future」 Contemporary Art Center（シンシナティ、アメリカ）
- 2016 「The Future Was Then」 SCAD Museum of Art（サバンナ、アメリカ）  
「My First Show in Japan, Year 2044」 NANZUKA（東京）
- 2018 「Architectural Anomalies」 NANZUKA（東京）
- 2019 HOW Art Museum（上海、中国）
- 2020 「Relics of Kanto Through Time」 NANZUKA（東京）  
「Moonraker, Carte Blanche à Daniel Arsham」 ギメ東洋美術館（パリ、フランス）

**主なグループ展**

- 2004 「In Situ」 The Museum of Contemporary Art ( マイアミ、アメリカ )
- 2009 「Painting the Glass House: Artists Revisit Modern Architecture」  
Mills College Art Museum ( オークランド、アメリカ )  
「Heaven」 2nd Athens Biennale ( アテネ、ギリシャ )  
「Projections」 Carré d'art de Nîmes ( ニーム、フランス )
- 2011 「Flash: Light, Festival of Ideas for the New City」  
New Museum ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2013 「Homebodies」 Museum of Contemporary Art ( シカゴ、アメリカ )

## ヴァージル・アブロー

アメリカ、イリノイ州ロックフォード生まれのヴァージル・アブローは、アーティスト、建築家、エンジニア、クリエイティブ・ディレクター、工業デザイナー、ファッション・デザイナー、ミュージシャン、DJ、慈善家として活躍した。ウイスコンシン大学マディソン校で土木工学の学位を取得後、シカゴのイリノイ工科大学（IIT）で建築学の修士課程を修了した。IITでは、ミース・ファン・デル・ローエが作成したデザインカリキュラムを学ぶ中で、彼の芸術活動の根幹を築いていった。シカゴ現代美術館は、2019年夏に、アブローの作品による大規模な巡回展を開催し、同美術館史上最高の入場者数を記録した。オフホワイト™の創設者兼チーフ・クリエイティブ・ディレクターであり、ルイ・ヴィトンのメンズアーティスティック・ディレクターでもあった。

## 飯塚 琅玕齋

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <http://www.rokando.com/index.html>

1890 年、栃木県に生まれる。本名弥之助。初代飯塚鳳齋 ( 1851-1916 ) の七男。家は代々竹芸を業としており少年期から父に師事し、飯塚家に継承された精巧な唐物写しの技を習得する。1910 年 20 歳の折、一家で上京し、本格的に竹工芸家を目指し、書道、生花にも励んだ。1922 年平和記念東京博覧会で銀賞受賞。1926 年には日本工芸美術会の結成に竹工界から唯一参加し。帝展では 1931 年に初入選し、翌年には竹工芸界初の特選受賞。のちに竹工芸で初の審査員も務める。戦後、日展の参事や審査員、日本工芸会理事、日本竹工芸家協会会長などを歴任。制作活動は明治末から没年までにわたり、一貫して格調ある伝統派の第一人者と言える。竹刺編みなどを創案し、竹の素材を通して自らの心象や世界観を具現化し、後進の竹工芸家に多大な影響を与えた。

### 略歴

- 1890 栃木県生まれ
- 1922 平和記念東京博覧会 銀賞
- 1925 パリ万国装飾美術工芸博覧会 銅賞
- 1931 帝展初入選
- 1932 帝展特選受賞
- 1958 東京都にて逝去

## VERDY ( ヴエルディ )

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <http://gallery-kaikaikiki.com/2021/11/verdy-biography/>

1987 年、大阪に生まれる。原宿カルチャーやパンクロックをルーツに持ち、「Girls Don't Cry」「Wasted Youth」といった自身のブランドから様々なコラボレーションワークにいたるまで、数多くのプロジェクトを手がける。2007 年より VK DESIGN WORKS として活動し、グラフィックデザイナーの肩書きを持ちながら、その活動範囲はファッションデザイン、イベントプロデュース、映像製作など、ジャンルを超えて多岐に渡る。

VERDY の生み出すグラフィックは、若者を中心に熱狂的な支持を集め、アイテムの発売日には最後尾が見えないほどの行列が生まれることもある。愛らしくポップなオリジナルキャラクターたちは VERDY 自身のプロジェクトや作品だけでなく、様々なコラボレーションワークにも登場し、アイコン的な存在となっている。

### 略歴

1987 大阪府生まれ

### 主な個展

2021 「RISE ABOVE」 Kaikai Kiki Gallery ( 東京 )

## 岡部 嶺男

1919年愛知県にて、窯業関連事業を興し陶土採掘権を持つ加納家の孫として生まれ、祖父加納桑治郎に窯業技術の基本を学ぶ。少年時代は、学業の傍ら一家を支える働き手となり、土・釉薬・造形・窯作り・窯焚きまで研究制作した。1938年に東京理科大学に入学したものの、中退し入営。敗戦後復員し、制作を再開。作域が広いことで知られ、織部・志野・黄瀬戸・灰釉・鉄釉などにおいて、オリジナルの技法を開発した。また器体の全面に縄文を施した織部や志野の作品は、陶器作品ならではの技術を高度に駆使し、現代的な感覚をいかした独自のフォルムと鮮やかな発色を生み出したとして極めて高い評価を得た。その後、青磁の研究を完成させ、陶土を使用した「嶺男青磁」と言われる作風を生み出し、曜変天目の作品群も完成させた。作品は東京国立近代美術館（東京）、京都国立近代美術館（京都）などに收藏されている。

### 略歴

- 1919 愛知県生まれ
- 1932 愛知県瀬戸窯業学校入学
- 1938 東京理科大学入学
- 1952 日展初入選
- 1955 第1回陶磁協会賞受賞
- 1962 プラハ第3回国際陶芸展 グランプリ銀賞
- 1965 紺綬褒章を受賞
- 1969 宮内庁新宮殿正殿に「粉青瓷大砵一对」を納める
- 1990 愛知県にて逝去

## 桶谷 寧

1968年京都府に生まれる。1990年に関西大学工学部卒業後、1991年に京都府立高等技術陶工訓練校修了。曜変天目の第一人者として注目を集めており、油滴天目（ゆてきてんもく）・禾目天目（のぎめてんもく）・兎毫盞（とごうさん）・柿天目（かきてんもく）などの天目茶碗、その他、青瓷（せいじ）や井戸なども手がけている。

唐物の天目茶碗の最高峰として位置づけられている曜変天目茶碗は、中国・南宋時代に作られたものだが、世界で3点しか現存していないとされる。桶谷は800年前の南宋時代の制作方法を研究し、幾度もの実験を繰り返した結果、その再現に成功した。桶谷の曜変天目は、国宝曜変天目「稲葉天目」と同じく、光源や光の角度で色彩が多彩に変化し、その幻想的な輝きを放つ作品は多くの人を魅了している。

### 略歴

- 1968 京都府生まれ
- 1990 関西大学工学部卒業
- 1991 京都府立高等技術陶工訓練校修了
- 1992 京都市工業試験場修了
- 1996 曜変の試作に成功
- 2001 曜変天目が完成
- 2002 曜変天目を初めて発表

## ジョーディー・カーウィック

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.makigallery.com/artists/1012/>

Instagram : [@jordykerwick](https://www.instagram.com/jordykerwick)

1982 年、オーストラリアのメルボルンに生まれる。独学で絵画の制作を始め、2016 年にグループ展に初出品する。特定の様式に制約されることなく、自身の家族からインスピレーションを得て、植物や書物といった身近な静物を描きながら、近作ではそこに虎や熊、蛇など、対照的なモチーフを組み合わせた作品を発表している。現在はフランス南西部の町アルビを拠点に創作活動を行っている。

近年の主な個展に「I love you, What's your name」( Anna Zorina Gallery / ニューヨーク、アメリカ 2019 年 )、「The Three Month Dream」( Piermarq\* / シドニー、オーストラリア 2020 年 )、「The Duality Of A Moment」( Galerie Julien Cadet / パリ、フランス 2021 年 )、「Between Consciousness and Sleep」( Vigo Gallery / ロンドン、英国 2021 年 ) など。

### 略歴

1982 オーストラリア、メルボルン生まれ

### 主な個展・二人展

- 2017 「4th Time Around」 Lindberg Galleries (メルボルン、オーストラリア)
- 2017 「Cut the Chords to the moon」 galerie l'inlassable (パリ、フランス)  
\* Justin Williams との二人展
- 2018 「Looking for Sunshine」 Lindberg Galleries (メルボルン、オーストラリア)
- 2018 「Outro」 Piermarq\* (シドニー、オーストラリア)
- 2018 「Diary of an Introvert」 Delphian Gallery (ロンドン、英国)
- 2019 「Sweep the leg, Johnny」 Pt. 2 Gallery (オークランド、アメリカ)
- 2019 「Micro | Macro: Paintings of Love & Hate」 TW Fine Art  
(ブリスベン、オーストラリア)
- 2019 「Smuggling Vanilla」 Galerie 42B (パリ、フランス)  
\* Francisco Mended Moreira との二人展
- 2019 「Ich bin D.B. Cooper」 Galerie Rompone (ケルン、ドイツ)
- 2019 「Me & You & You & You」 The Holdout Andenken Gallery  
(リスボン、ポルトガル) \* Rachel McCully との二人展
- 2019 「FATAL PURITY」 MASAHIRO MAKI GALLERY [ 現 MAKI Gallery ]  
(東京 / パリ)

- 2019 「I love you, What's your name」 Anna Zorina Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2020 「The Three Month Dream」 Piermarq\* ( シドニー、オーストラリア )
- 2021 「Don't Burn The House Down Yet」 Allouche Benias Gallery ( アテネ、ギリシャ )
- 2021 「Drawings and Pictures and Time」 Pt. 2 Gallery ( オークランド、アメリカ )
- 2021 「The Duality Of A Moment」 Galerie Julien Cadet ( パリ、フランス )
- 2021 「Between Consciousness and Sleep」 Vigo Gallery ( ロンドン、英国 )

### 主なグループ展

- 2016 「Local Group Show」 Seventh Gallery ( メルボルン、オーストラリア )
- 2016 「New Slang」 Den-Holm Studios ( メルボルン、オーストラリア )
- 2017 「Summer Cool」 Anna Zorina Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2017 「75 work on paper」 BEERS London ( ロンドン、英国 )
- 2018 「Coffee for Eight」 Pt. 2 Gallery ( オークランド、アメリカ )
- 2018 「Angry Boys」 Kunstforeningen Det Ny Kastet ( ティステズ、デンマーク )
- 2018 「CRISP」 heliumcowboy ( ハンブルク、ドイツ )
- 2018 「Tale of Talent」 Galerie Wolfsen ( オールボー、デンマーク )
- 2019 「#Favorites」 Ambacher Contemporary ( ミュンヘン、ドイツ )
- 2019 「One Night Only」 Hunted Projects ( エディンバラ、スコットランド )
- 2019 「Play」 Galerie Rompone ( ケルン、ドイツ )
- 2019 「From Europe with Love」 Piermarq\* ( シドニー、オーストラリア )
- 2019 「Summer Marathon」 BEERS London ( ロンドン、英国 )
- 2019 「October Group Exhibition」 Pt. 2 Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2020 「LIMBO」 Everyday Gallery ( アントワープ、ベルギー )
- 2020 「DONTGIVEADAMNS curated by Sasha Bogojev」 Marian Cramer Projects  
( アムステルダム、オランダ )
- 2020 「Only Bombs I」 NBB Gallery ( ベルリン、ドイツ )
- 2020 「Figuration/ Abstraktion」 Kunstbygningen i Vrå – Engelundsamlingen  
( ヴラ、デンマーク )
- 2020 「Hybrids」 CFHILL ( ストックホルム、スウェーデン )
- 2020 「Hey! Follow me! It's Happy hour time!」 Galeria Fran Reus  
( パルマ・デ・マヨルカ、スペイン )
- 2021 「Brindar con extraños (Parte 2)」 TRINTA arte contemporánea [ Online Show ]  
( サンティアゴ・デ・コンポステラ、スペイン )
- 2021 「CONTAMINATIONS」 G/ART/EN ( コモ、イタリア )

## KAWS (カウズ)

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : [kawsone.com](http://kawsone.com)

Instagram : [@kaws](https://www.instagram.com/kaws)

KAWS は美術館や ギャラリーで定期的に展示する以外にも、観客を惹きつけている。彼の多岐にわたる作品は絵画、壁画、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、ストリートアート、大規模な彫刻など、アートとデザインの世界にまたがっている。この 20 年間で、KAWS はアーティストとしての形式的な敏捷性だけでなく、根本的なウィット、不遜さ、現代への愛着を一貫して示す作品で成功を収めてきた。彼の洗練されたグラフィック言語は大胆で大きなジェスチャーと凝った遊び心の両方で具象を生き生きと表現している。

### 略歴

1974 Born in Jersey City, USA

1996 Bachelor of Arts in School of Visual Arts ( ニューヨーク、アメリカ )

### 主な個展

1999 「KAWS」 Colette ( パリ、フランス )

2001 「Tokyo First」 パルコギャラリー ( 東京 )

2002 「C9」 MU Art Foundation ( アイントホーフエン、オランダ )

2003 「Original Fake」 BAPE Gallery ( 東京 )

2008 「SATURATED」 Galerie Emmanuel Perrotin ( マイアミ、アメリカ )

「KAWS」 Gering & López Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )

2009 「THE LONG WAY HOME, Honor Fraser ( ロサンゼルス、アメリカ )

2010 「KAWS」 Aldrich Museum of Contemporary Art ( リッジフィールド、アメリカ )

「COMPANION (PASSING THROUGH)」 Harbour City ( 香港、中国 )

「PAY THE DEBT TO NATURE」 Galerie Perrotin ( パリ、フランス )

「KAWS」 Galeria Javier Lopez ( マドリード、スペイン )

2012 「KAWS: DOWN TIME」 High Museum of Art ( アトランタ、アメリカ )

「COMPANION (PASSING THROUGH)」 Modern Art Museum of Fort Worth  
( フォートワース、アメリカ )

「IMAGINARY FRIENDS」 Galerie Perrotin ( パリ、フランス )

「THE NATURE OF NEED」 Galerie Perrotin ( 香港、中国 )

2011 「COMPANION (PASSING THROUGH)」 Aldrich Museum of Contemporary Art  
( リッジフィールド、アメリカ )

- 「COMPANION (PASSING THROUGH)」 The Standard ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「Focus: KAWS」 Modern Art Museum of Fort Worth ( フォートワース、アメリカ )  
 「KAWS: COMPANION」 High Museum of Art ( アトランタ、アメリカ )  
 「HOLD THE LINE」 Honor Fraser ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2013 「Ohhh...」 Kaikai Kiki Gallery ( 東京 )  
 「UPS AND DOWNS」 Nerman Museum of Contemporary Art  
 ( オーバーランドパーク、アメリカ )  
 「KAWS @ PAFA」 Pennsylvania Academy of the Fine Arts  
 ( フィラデルフィア、アメリカ )  
 「KAWS GISWIL」 More Gallery ( ギスヴィル、スイス )  
 「PASS THE BLAME」 Galerie Perrotin ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「KAWS」 Mary Boone Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2014 「FINAL DAYS」 Centro de Arte Contemporáneo ( マラガ、スペイン )  
 「CLEAN SLATE」 Harbour City ( 香港、中国 )  
 「MAN'S BEST FRIEND」 Honor Fraser ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「PERMANENT VACATION」 Eden Rock Gallery ( サン・バルテルミー島 )  
 「PLAY YOUR PART」 Galeria Javier Lopez ( マドリッド、スペイン )
- 2015 「CLEAN SLATE」 Shanghai Times Square ( 上海、中国 )  
 「CLEAN SLATE」 LA NAVE, Las Salinas ( イベザ、スペイン )  
 「ALONG THE WAY」 Brooklyn Museum ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「PERMANENT VACATION II」 Eden Rock Gallery ( サン・バルテルミー島 )
- 2016 「KAWS」 Yorkshire Sculpture Park ( ウェスト・ヨークシャー、英国 )  
 「KAWS: BFF」 Central Embassy ( バンコク、タイ )  
 「WHERE THE END STARTS」 Modern Art Museum of Fort Worth  
 ( フォートワース、アメリカ )  
 「KAWS: GISWIL」 More Gallery ( ギスヴィル、スイス )  
 「KAWS」 Galerie Perrotin ( ソウル、韓国 )
- 2017 「WHERE THE END STARTS」 Yuz Museum ( 上海、中国 )  
 「FAR FAR DOWN」 Contemporary Art Museum of St. Louis  
 ( セントルイス、アメリカ )  
 「KAWS」 The Greenberg Gallery, ( セントルイス、アメリカ )
- 2018 「KAWS」 Galerie Perrotin ( 東京 )  
 「KAWS: HOLIDAY」 Seokchon Lake ( ソウル、韓国 )  
 「KAWS: CLEAN SLATE」 Modern Art Museum of Fort Worth  
 ( フォートワース、アメリカ )  
 「KAWS: GONE, Skarstedt ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「KAWS」 Galerie Perrotin ( 香港、中国 )

- 2019 「KAWS: HOLIDAY」 Chiang Kai-Shek Memorial Hall (台北、台湾)  
「KAWS: HOLIDAY」 Victoria Harbour (香港、中国)  
「KAWS: ALONG THE WAY」 HOCA Foundation (香港、中国)  
「KAWS: HOLIDAY」 Virginia Beach (バージニア、アメリカ)  
「KAWS: ALONE AGAIN」 Museum of Contemporary Art Detroit  
(デトロイト、アメリカ)  
「KAWS: HOLIDAY」 富士山 (静岡)  
「KAWS: COMPANIONSHIP IN THE AGE OF LONELINESS」 National Gallery of  
Victoria (メルボルン、オーストラリア)  
「KAWS: HE EATS ALONE」 Fire Station, Qatar Museums (ドーハ、カタール)  
「KAWS: HOLIDAY」 Dhow Harbour (ドーハ、カタール)  
「KAWS: BLACKOUT」 Skarstedt (ロンドン、英国)
- 2020 「KAWS: WHAT PARTY」 K11 Art Muses (香港、中国)  
「KAWS: WHAT PARTY」 Seagram Building (ニューヨーク、アメリカ)  
「KAWS: HOLIDAY SPACE」  
「KAWS: EXPANDED HOLIDAY (Augmented Reality)」 (ニューヨーク /  
ロサンゼルス / ロンドン / パリ / サン・パウロ / ソウル / 台湾 / 東京 / カタール /  
タンザニア / オーストラリア)
- 2021 「KAWS: WHAT PARTY」 Brooklyn Museum (ブルックリン、ニューヨーク)  
「KAWS: TOKYO FIRST」 森アーツセンターギャラリー (東京)  
「KAWS: PRINTS」 High Museum of Art (アトランタ、アメリカ)  
「KAWS: HOLIDAY」 Marina Bay (シンガポール)  
「KAWS: SPOKE TOO SOON」 Skarstedt Gallery (ニューヨーク、アメリカ)  
「KAWS: SHARE」 Rockefeller Center (ニューヨーク、アメリカ)  
「KAWS: HOLIDAY」 (ブリストル、英国)  
「KAWS: HOLIDAY」 Skarstedt, Palm Beach (フロリダ、アメリカ)  
「KAWS: WHAT PARTY」 Seagram Plaza (ニューヨーク、アメリカ)
- 2022 「KAWS: NEW FICTION」 Serpentine Gallery (ロンドン、英国)  
「KAWS: HOLIDAY」 Changbai Mountain (中国)

### 主なグループ展

- 2001 「Pierides」 Museum of Contemporary Art (アテネ、ギリシャ)  
「Shortcuts」 Nicosia Municipal Arts Centre (アテネ、ギリシャ)
- 2003 「SK8 on the Wall」 パルコギャラリー (東京)
- 2004 「Beautiful Losers, curated by Aaron Rose and Christian Strike」 Contemporary Arts  
Center (シンシナティ、アメリカ) ほか巡回

- 2009 「Plastic Culture」 Harris Museum and Art Gallery ( プレストン、英国 )
- 2010 「The Reflected Gaze - Self Portraiture Today」 The Torrance Art Museum  
( トーランス、アメリカ )
- 2011 「Art in the Streets」 Museum of Contemporary Art ( ロサンゼルス、アメリカ )  
「PRETTY ON THE INSIDE」 organized by Erik Parker and KAWS, Paul Kasmin  
Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2012 「East West Shift to the Middle Part #1」 Bill Brady KC  
( カンザスシティ、アメリカ )  
「Group Show - Wangechi Mutu - KAWS - Jeff Sonhouse - Wim Delvoye」 Gallery  
Zidoun ( ルクセンブルグ、ドイツ )  
「It Ain't Fair 2012」 OHWOW ( マイアミ、アメリカ )
- 2014 「If You're Accidentally Not Included, Don't Worry About It.」 curated by Peter Saul,  
Zurcher Studio ( ニューヨーク、アメリカ )  
「Joyride」 Marlborough Chelsea ( ニューヨーク、アメリカ )  
「Ok, I'll rename it」 Bill Brady KC ( カンザスシティ、アメリカ )  
「Knock! Knock!」 Galeria Javier Lopez ( マドリード、スペイン )  
「Full House」 Garth Greenan Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )  
「PAINT NEW YORK」 GL Strand ( コペンハーゲン、デンマーク )
- 2015 「A Shared Space: KAWS, Karl Wirsum, Tomoo Gokita, Newcomb Art Museum of  
Tulane University ( ニューオーリンズ、アメリカ )  
「Respect」 Centro de Arte Contemporáneo ( マラガ、スペイン )  
「ArtZuid 2015」 ( アムステルダム、オランダ )
- 2016 「Character」 V1 Gallery ( コペンハーゲン、デンマーク )  
「Holdings: Selections from MCASD's Collection」 Museum of Contemporary Art  
San Diego, La Jolla ( カルフォルニア、アメリカ )  
「Greek Gotham」 Dio Horia Gallery ( ミコノス島、ギリシャ )  
「A Material Legacy: The Nancy A. Nasher and David J. Haemisegger Collection of  
Contemporary Art」 Nasher Museum of Art at Duke University, Durham  
( ニューキャッスル、英国 )
- 2018 「Approaching The Figure」 Skarstedt ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2019 「Happy!」 NSU Art Museum ( フォート・ローダデール、アメリカ )  
「By/Buy Me」 Susan Inglett Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2020 「Collectouples」 New York Academy of Art ( ニューヨーク、アメリカ )  
「Nuit Blanche Arts Festival」 ( パリ、フランス )  
「The Flag Project」 Rockefeller Center ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2021 「ArtZuid Sculpture Biennale」 ( アムステルダム、オランダ )  
「Black/White」 Skarstedt ( イースト・ハンプトン、アメリカ )

- 「Painter/Sculptor」 Skarstedt ( ロンドン、英国 )
- 「The Looking Glass」 Frieze ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2022 「Sculpture」 Skarstedt ( パリ、フランス )
- 「Un Panorama de este Mundo」 Fundacion Proa  
( ブエノスアイレス、アルゼンチン )
- 「Visions, 10th Annual Singapore Arts Week」 National Gallery ( シンガポール )
- 「1970s/GRAFFITI/TODAY, Phillips Park Avenue ( ニューヨーク、アメリカ )
- 「Artists Inspired by Music: Interscope Reimagined」 LACMA  
( ロサンゼルス、アメリカ )
- 「Light to Night Festival」 National Gallery ( シンガポール )

## ハビア・カジェハ

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.callejastudio.com/>

Web : [https://nanzuka.com/ja/artists/javier\\_calleja](https://nanzuka.com/ja/artists/javier_calleja)

Instagram : [@javicalleja](https://www.instagram.com/javicalleja)

1971 年、スペインのマラガに生まれる。2000 年、グラナダ大学 ( グラナダ、スペイン ) で美術学士を取得。トレードマークともいえる大きな目のキャラクターや、日常生活のさまざまな出来事に驚きとユーモアを与える作品で知られる。2007 年にマラガ現代美術館 ( マガラ、スペイン ) で奈良美智の個展が開催された際にサポートを経験し、その手法や特徴的なスタイルなど大いに影響を受けたと語っている。現在も故郷のマラガを拠点に活動を続けるカジェハは、2018 年に日本で初個展を開催し注目を集めた。

近年の主な個展に「Clouds Through The Window」 ( Galerie Zink / ヴァルトキルヒュン、ドイツ 2019 年 )、 「SOONER OR LATER」 ( Bill Brady Gallery / フロリダ、アメリカ 2020 年 )、 「Open Your Eyes」 ( NANZUKA UNDERGROUND 他 / 東京 2021 年 ) など。

### 略歴

1983 スペイン、マラガ生まれ

2000 グラナダ大学 ( グラナダ、スペイン ) 美術学士取得

### 主な個展

2003 「Recuperar la mirada」 Carmen de la Victoria、Universidad de Granada ( グラナダ、スペイン )

2005 「Hommo ludens, hommo invadens」 Palacio de los Condes de Gabia、Diputación de Granada ( グラナダ、スペイン )

2006 「El Coleccionista」 Sala Moreno Villa ( マラガ、スペイン )

2008 「Play Room」 CAC Málaga. Centro de Arte Contemporáneo de Málaga ( マラガ、スペイン )

2009 「Sweet Home」 Galería Rafael Pérez Hernando ( マドリード、スペイン )

2010 「Cuatro Paredes」 CAB de Burgos ( ブルゴス、スペイン )

「El fin del mundo」 Galería Alfredo Viñas ( マラガ、スペイン )

2012 「This is not my universe」 Fondation Suisse ( パリ、フランス )

「What a beautiful pink day」 Galeria Louis 21 ( パルマ・デ・マヨルカ、スペイン )

2013 「Alimentación científica de las gallinas」 Beca Vazquez Díaz、Museo de Huelva

- ( ウエルバ、スペイン )
- 2014 「Historia de dos para un final imposible」 Galería Rafael Pérez Hernando  
( マドリード、スペイン )
- 2015 「Broken white」 Galería Yusto/Giner ( マルベリャ、スペイン )  
「No art here」 Castor Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )  
「Finally together」 Centro de Arte de Alcobendas ( マドリード、スペイン )  
「Fast food」 Galerie Zink  
( ゴイバースドルフ・ イン・ デア・ オーバープファルツ、ドイツ )
- 2016 「Few things.」 Galería Rafael Pérez Hernando ( マドリード、スペイン )
- 2017 「Hi」 AISHONANZUKA ( 香港、中国 )
- 2018 「Javier Calleja」 Galerie Zink ( ヴァルトキルヒエン、ドイツ )  
「Fake is the future」 Barlach Halle K ( ハンブルク、ドイツ )  
「The F\*k'n bear」 Echo One NANZUKA ( バンコク、タイ )  
「Do Not Touch」 NANZUKA ( 東京 )
- 2019 「Those Little Things」 Dio Horia Art Gallery ( ミコノス、ギリシャ )  
「I did, I do, I will do」 AISHONANZUKA ( 香港、中国 )  
「Clouds Through The Window」 Galerie Zink ( ヴァルトキルヒエン、ドイツ )
- 2020 「SOONER OR LATER」 Bill Brady Gallery ( フロリダ、アメリカ )  
「NO ART HERE」 NANZUKA 2G ( 東京 )  
「NO RUSH」 3110NZ ( 東京 )
- 2021 「Si yo te contara...」 Rafael Pérez Hernando ( マドリード、スペイン )  
「DROP BY DROP」 DIO HORI ( アテネ、ギリシャ )  
「Open Your Eyes」 NANZUKA UNDERGROUND、3110NZ ( 東京 )

### 主なグループ展

- 2001 「Premios Pepe Espaliú」 Instituto Andaluz de la Juventud[IAJ]  
( コルドバ、スペイン )
- 2002 「Arte más joven」 Instituto Andaluz de la Juventud[IAJ] ( グラナダ、スペイン )
- 2006 「The Paintball Show」 Kidrobot ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2007 「Plásticamente」 Ateneo ( マラガ、スペイン )  
「Nouvelle Poubelle」 Palacio de la Aduana ( マラガ、スペイン )
- 2008 「XI Bienal de Artes Plásticas」 Unicaja、Palacio Episcopal ( マラガ、スペイン )
- 2011 「Espacio Atlántico, Galería Rafael Pérez Hernando」 ( ビーゴ、スペイン )  
「[I+E]2, Colección Caja de Burgos」 CAB de Burgos ( ブルゴス、スペイン )
- 2012 「Neighbours」 CAC Málaga ( マラガ、スペイン )
- 2013 「Nunca jamás. Historias de niños para adultos」 Fundación Madariaga

- ( セビリア、スペイン )
- 2014 「Knock-knock」 Galería Javier López & Fer Francés ( マドリード、スペイン )  
「Neighbours II」 CAC Málaga ( マラガ、スペイン )
- 2015 「Cantos rodados」 MAD. Antequera ( マラガ、スペイン )  
「Dibujo expandido. Colección DKV」 Museo ABC ( マドリード、スペイン )  
「Feria de arte Estampa」 Galería Yusto/Giner ( マドリード、スペイン )  
「Guiones para Gulliver」 MAD. Antequera ( マラガ、スペイン )
- 2016 「Art Copenhagen」 Galeria Yusto/Giner ( マドリード、スペイン )
- 2017 「The Veterans」 Dio Horia ( ミコノス、ギリシャ )
- 2019 「Taipei Dangdai」 Taipei Nangang Exhibition Center ( 台北、台湾 )
- 2019 「MSD\_MAKE SOMETHING DIFFERENT」 CAC Velez Malaga ( マラガ、スペイン )
- 2020 「Global Pop Underground」 PARCO MUSEUM TOKYO ( 東京 )
- 2021 「Salon de Peinture」 Almine Rech Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )  
「FIAC & FIAC Hors Les Murs」 Grand Palais Ephemere [Champ-de-Mars, Paris]  
( パリ、フランス )

#### 受賞歴

- 2001 Pepe Espaliú Price, IAJ ( コルドバ、スペイン )
- 2010 Beca Vázquez Díaz, Diputación de Huelva ( ウエルバ、スペイン )
- 2014 Idea Art Marset Price、SWAB 2014 ( バルセロナ、スペイン )  
DKV Price、Best Spanish artist、SWAB 2014 ( バルセロナ、スペイン )
- 2017 Imagen and poster of 20 edition Festival de Málaga. Cine en Español  
[Malaga Film Festival] ( マラガ、スペイン )

## 上條 晋

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.makigallery.com/artists/103/>

Instagram : [@susumukamijo](https://www.instagram.com/susumukamijo)

1975 年、長野県に生まれる。16 歳でアメリカに渡り、2000 年にオレゴン大学絵画ドローイング科を卒業したのち、2002 年ワシントン大学絵画ドローイング科修士号を取得。現在はブルックリンを拠点に活動する。動物や人の顔など身近なモチーフを色や形の歪みを通して抽象化する表現を追求しており、2014 年からプードルのドローイングおよびペインティングシリーズを精力的に制作している。2017 年、初の画集『Poodles』（Pacific 社）を刊行。

近年の主な個展に「Fetch Your Own Bones」（Kantor Gallery / ビバリーヒルズ、アメリカ 2020 年）、「Lick Me Till Dawn」（Jack Hanley Gallery / ニューヨーク、アメリカ 2020 年）、「Beyond The Hills」（MAKI Gallery / 東京 2021 年）、「How Was Your Summer?」（Harper's East Hampton / ニューヨーク、アメリカ 2021 年）など。

### 略歴

- 1975 長野県生まれ
- 2000 オレゴン大学（オレゴン、アメリカ）美術学士取得
- 2002 ワシントン大学（ワシントン D.C.、アメリカ）美術学修士取得

### 主な個展・二人展

- 2016 「I Think So」 Marvin Gardens（ニューヨーク、アメリカ）
- 2017 「Komagata Maru」（ニューヨーク、アメリカ）
- 2017 「Poodles」 Sotheby's S|2 Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2018 「Poodles」 Tortoise（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2018 「I'll Walk You Tomorrow」 Harper's Apartment（ニューヨーク、アメリカ）
- 2018 「Walk With Me To The Sea」 Sakurado Fine Arts [現 MAKI Gallery]（東京）
- 2019 「I'll Follow You To The Sunset」 GNYP Gallery（ベルリン、ドイツ）
- 2019 「When You Came At Dawn」 Stems Gallery（ブリュッセル、ベルギー）
- 2020 「Fetch Your Own Bones」 Kantor Gallery（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2020 「Lick Me Till Dawn」 Jack Hanley Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2020 「Lick Me Till Dawn」 Marvin Gardens（ニューヨーク、アメリカ）
- 2021 「Beyond The Hills」 MAKI Gallery [天王洲]（東京）
- 2021 「How Was Your Summer?」 Harper's [East Hampton]

( ニューヨーク、アメリカ )

2021 「Nobunaga 02」 GNYF Gallery ( ベルリン、ドイツ ) \* Koichi Sato との二人展

### 主なグループ展

2011 「Entanglement-1」 ART BLOCK ART BLOG ( ニューヨーク、アメリカ )

2011 「Entanglement-2」 Regina Rex ( ニューヨーク、アメリカ )

2014 「A Space with presents: Works on paper」 Fireproof ( ニューヨーク、アメリカ )

2016 「I've Been Meaning To Sue For Something」 Marvin Gardens  
( ニューヨーク、アメリカ )

2016 「An Intricate Stew Of Truths And Mirages」 The Third Policeman  
( ニューヨーク、アメリカ )

2017 「Dogs curated by Oliver Clegg and Austin Lee」 Raymond Duck [173 Green Street] ( ニューヨーク、アメリカ )

2017 「GUMBO」 MAW ( ニューヨーク、アメリカ )

2017 「GERANIUM」 Stems Gallery ( ブリュッセル、ベルギー )

2018 「The Beverly Hills Hotel Pop Up」 Harper's [Los Angeles]  
( ロサンゼルス、アメリカ )

2018 「Friends of Marvin Gardens」 Rod Barton ( ロンドン、英国 )

2018 「New York Now」 Allouche Benias ( アテネ、ギリシャ )

2020 「Anecdote」 Stems Gallery ( ブリュッセル、ベルギー )

2020 「36 Paintings」 Harper's [East Hampton] ( ニューヨーク、アメリカ )

2021 「It's Cozy Inside」 Nepenthes New York ( ニューヨーク、アメリカ )

2021 「Best in Show」 Jack Hanley Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )

2021 「The Interior」 Venus Over Manhattan ( ニューヨーク、アメリカ )

## 加守田 章二

1933年、大阪府に生まれる。高校時代から美術の才能を発揮し、京都市立美術大学工芸科陶磁器専攻（現・京都市立芸術大学）に進学。富本憲吉や近藤悠三の元で指導を受ける。その後、茨城県日立市での製陶所勤務を経て、1958年に栃木県益子町に移り、翌年独立。本格的な制作活動を始めた。1961年に鉄釉作品で日本伝統工芸展に初入選。1967年には陶芸界初の高村光太郎賞を受賞した。その後、岩手県遠野市に築窯し制作専念し、曲線彫文、彩陶など新境地を次々と発表し、40歳の若さで陶芸家初の芸術選奨文部大臣新人賞（美術部門）を受賞した。デザインを研究し、独創的な器形を広く展開した加守田の作品は、従来の陶芸の概念を超え、益子焼に近代的造形を取り入れた作家として高く評価されている。東京国立近代美術館（東京）、京都国立近代美術館（京都）、兵庫陶芸美術館（兵庫）、ヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン、英国）など国内外のパブリックコレクションに収蔵されている。

### 略歴

- 1933 大阪府生まれ
- 1956 京都市立美術大学工芸科陶磁器専攻卒業
- 1961 日本伝統工芸展初入選
- 1967 高村光太郎賞受賞
- 1974 陶芸家初の芸術選奨文部大臣新人賞を受賞
- 1983 東京都にて逝去

## ブライアン・カルヴァン

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.antonkerngallery.com/artists/45-brian-calvin/>

Instagram : [@nowhereboogie](#)

1969 年、アメリカのカリフォルニア州バイセイリアに生まれる。カリフォルニア大学バークレー校を卒業後、シカゴ美術館附属美術大学で美術学修士を取得。大画面に描く肖像画で知られるカルバンの作品は、対象をクローズアップし、明るい色彩を用いてフラットな色面で大胆に構成される。日本では 1998 年、99 年、2002 年に、Gallery Side 2 (東京) で個展を開催。2013 年にはファッションブランドのラフ・シモンズとのコラボレーションも行った。作品はロサンゼルス・カウンティ美術 (LACMA / ロサンゼルス、アメリカ)、ロサンゼルス現代美術館 (MOCA / ロサンゼルス、アメリカ)、ポートランド美術館など、各地の美術館のパーマネントコレクションに収められている。

### 略歴

- 1969 アメリカ、カリフォルニア州バイセイリア生まれ
- 1991 University of California at Berkeley (バークレー、アメリカ) BA 取得
- 1994 School of The Art Institute of Chicago (シカゴ、アメリカ) MFA 取得

### 主な個展

- 1994 「New Paintings: Brian Calvin」 Contemporary Art Workshop (シカゴ、アメリカ)
- 1996 「God's Plot & John Wilkes Booth」 Zolla/Lieberman Gallery (シカゴ、アメリカ)
- 1998 「Good News」 Gallery Side 2 (東京)
- 1999 「It's Easy to Make Friends」 Gallery Side 2 (東京)
- 2000 「Days」 Marc Foxx (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2002 「Unreal」 Gallery Side 2 (東京)
- 2003 「The Conversation」 Marc Foxx (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2007 「Things」 Marc Foxx (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2009 「Head」 Anton Kern (ニューヨーク、アメリカ)
- 2013 「End of Messages」 The Finley Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2016 「Hours」 Almine Rech Gallery (パリ、フランス)
- 2017 「States」 Almine Rech Gallery (ブリュッセル、ベルギー)  
「Major Minor」 Corvi-Mora (ロンドン、英国)
- 2018 「Così fan tutte」 Gallery Met, Metropolitan Opera (ニューヨーク、アメリカ)

- 「Pressing On」 Corbett vs. Dempsey ( シカゴ、アメリカ )  
2019 「Fugue」 Almine Rech Gallery ( パリ、フランス )  
2020 「Waiting」 Anton Kern Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )  
2021 「More Days」 Almine Rech Gallery ( パリ、フランス )

### 主なグループ展

- 2001 「The Americans. New Art」 Barbican Art Gallery ( ロンドン、英国 )  
2002 「Dear Painter, paint me」 Centre Pompidou ( パリ、フランス )、  
Kunsthalle Wien, Vien ( ウィーン、オーストリア )  
2003 「Baja to Vancouver: The West Coast in Contemporary Art」  
Seattle Art Museum ( シアトル、アメリカ )、Museum of Contemporary Art  
San Diego ( サンディエゴ、アメリカ )、Vancouver Art Gallery  
( バンクーバー、カナダ )、CCA Watts Institute of Contemporary Arts  
( サンフランシスコ、アメリカ )  
2007 「After Cezanne」 MOCA The Museum of Contemporary Art  
( ロサンゼルス、アメリカ )  
2012 「We The People」 Robert Rauschenberg Foundation Project Space  
( ニューヨーク、アメリカ )  
2015 「Tracing Shadows」 Samsung Museum of Art ( ソウル、韓国 )

## 河井 寛次郎

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <http://www.kanjiro.jp>

1890 年、島根県に生まれる。中学時代に焼物の道を志し、1910 年東京高等工業学校（現東京工業大学）窯業科に入学。濱田庄司は後輩にあたり、生涯親しく交わった。卒業後は京都市立陶磁器試験所に技師として入所。1920 年京都市五条坂に住居と工房「鐘溪窯」を構え独立。翌年の初個展では東洋古陶磁の技法を駆使した雅やかな作品が好評を博したが、次第に自身の制作に悩むようになる。濱田を介して柳宗悦と親交を結んだことをきっかけに作風が変化し、1925 年には柳、濱田らとともに「日本民藝美術館設立趣意書」の起草に参加。民藝運動を牽引した。晩年は「用の美」の域を超えた独創性あふれる作品世界を生み出し、無位無冠の陶工として創作活動を続けた。

### 略歴

- 1890 島根県生まれ
- 1914 東京高等工業学校（現東京工業大学）窯業科卒業
- 1921 初個展を東京 / 大阪高島屋にて開催
- 1925 「日本民藝美術館設立趣意書」の起草
- 1937 「鉄辰砂草花図壺」がパリ万国博覧会でグランプリ受賞
- 1955 文化勲章、人間国宝、芸術院会員への推挙などを辞退
- 1957 「白地草花絵扁壺」がミラノ・トリエンナーレ国際工芸展でグランプリ受賞
- 1966 京都府にて逝去

## 北大路 魯山人

1883年、京都府に生まれる。生後すぐに養子に出され転々とし丁稚奉公に出されるが、やがて書の才能を現し、岡本可亭に師事して書、篆刻で独立。1908年朝鮮総督府の書記となった書道と篆刻の研究に打ち込む。帰国してからは各地で食客生活を送り食通の才能も現し、京橋で大雅堂藝術店を共同経営する中、会員制「美食倶楽部」「星岡茶寮」を設立。食と器についての見識を実践する場として自ら料理長として料理を提供し、政財界の食通たちの間で評判となる。1927年には自ら理想とする食器を求めて窯を設立。古陶磁の研究と作陶活動に没頭していき、作陶と料理の領域で精力的な活動を展開した。ロックフェラー財団の招聘によりアメリカとヨーロッパを巡遊し、各地で個展を開催したことにより国際的に名声を博す。料理を取り巻く総合的な美を追求し、創意に満ちた自由奔放な作風が独自の美的世界を築いている。作品は国内美術館をはじめ、ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）やヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン、英国）にも収蔵されている。

### 略歴

- 1883 京都府生まれ
- 1921 会員制「美食倶楽部」を設立
- 1925 会員制高級料亭「星岡茶寮」設立
- 1927 「魯山人窯芸研究所星岡窯」を設立
- 1954 ニューヨーク近代美術館にて「魯山人」展開催
- 1955 重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定を辞退
- 1959 神奈川県にて逝去

## クレイグ・クチア

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <http://www.craigkucia.com/>

Instagram : [@craigkucia](https://www.instagram.com/craigkucia)

オハイオ州クリーブランドに生まれる。Cleveland Institute of Art ( クリーブランド、アメリカ ) で美術学士、Chelsea College of Arts ( ロンドン、英国 ) で美術学のポストグラデュエート・ディプロマを取得。クチアは記憶と想像の境界で生じる視覚的および心理的空間の表現を追求し、複雑で神秘的な構図をもつ示唆に富んだ作品で知られる。その作品は、シュルレアリスムやキュビズムなどの歴史的芸術運動を参照すると同時に、作家個人の経験からもインスピレーションを得ている。様々な主題において、均質なタッチから素材感豊かなインパストまで幅広い技法を併用することで、作家は油絵の可能性を探求している。

作品は Miami Art Museum ( マイアミ、アメリカ )、High Museum of Art ( アトランタ、アメリカ ) などのパーマネントコレクションに収められている。

### 略歴

- アメリカ、オハイオ州クリーブランド生まれ
- 1999 Cleveland Institute of Art ( クリーブランド、アメリカ ) 美術学士取得
- 2003 Chelsea College of Arts ( ロンドン、英国 ) ポストグラデュエート・ディプロマ ( 美術学 ) 取得

### 主な個展

- 2003 「what fun our life could have been」 Kevin Bruk Gallery ( マイアミ、アメリカ )
- 2004 「...and no one had anything to say」 Shaheen Modern and Contemporary Art ( クリーブランド、アメリカ )
- 2006 「broken smiles, lost tragedies, fractured talks, and in the end, it was perfect」 Kevin Bruk Gallery ( マイアミ、アメリカ )
- 2007 「many sundays were spent talking of rockets」 Art and Culture Center of Hollywood ( フロリダ州ハリウッド、アメリカ )
- 2008 「authors wrote of places i had never seen」 The Melvin Gallery, Florida Southern College ( レイクランド、アメリカ )
- 2009 「we left with our hearts tired」 Shaheen Modern and Contemporary Art ( クリーブランド、アメリカ )
- 2014 「accidental documentaries」 Shaheen Modern and Contemporary Art

- ( クリーブランド、アメリカ )
- 2018 「paintings」 AM Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2020 「whales」 The Pit ( グレンデール、アメリカ )
- 2021 「a toucan」 L21 ( バレアレス諸島、スペイン )  
 「act(ive) enclosure」 MAKI Gallery [表参道] ( 東京 )
- 2022 「windows」 Taymour Grahne Projects ( ロンドン、英国 )

### 主なグループ展

- 2000 「Trailer」 GreeneNaftali Inc. ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2002 「Aaron Noble, Craig Kucia」 Blum & Poe ( サンタモニカ、アメリカ )
- 2003 「East International 2003, curated by Toby Webster and Eva Rothschild」  
 Norwich Gallery ( ノリッジ、英国 )
- 2004 「Light and Atmosphere」 Pérez Art Museum Miami ( マイアミ、アメリカ )  
 「Eye of the Needle」 Roberts & Tilton ( カルバーシティ、アメリカ )
- 2005 「Beautiful Dreamer」 Spaces Gallery ( クリーブランド、アメリカ )  
 「Drawing Narrative」 College of Wooster Art Museum ( ウースター、アメリカ )
- 2007 「Neointegrity」 Derek Eller Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「Creating a scene」 Art Center/South Florida ( マイアミビーチ、アメリカ )
- 2008 「Summer Show」 Marlborough Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「Thoughts on Democracy」 Wolfsonian Museum, Florida International University  
 ( マイアミビーチ、アメリカ )
- 2009 「Light of Day」 William Busta Gallery ( クリーブランド、アメリカ )  
 「Time + Temp」 Art and Culture Center of Hollywood  
 ( フロリダ州ハリウッド、アメリカ )
- 2013 「Koi No Yokan」 101/EXHIBIT ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2020 「Rider's of the Red Horse」 The Pit ( グレンデール、アメリカ )  
 「L.A. : Views」 MAKI Gallery [表参道] ( 東京 )
- 2021 「Craig Kucia & Peter Shire」 The Pit ( グレンデール、アメリカ )  
 「Fairyland」 Mindy Solomon Gallery ( マイアミ、アメリカ )  
 「36 Paintings」 Harper's Book ( ニューヨーク州イーストハンプトン、アメリカ )  
 「Wild Frontiers」 The Pit ( グレンデール、アメリカ )

## クララ・クリスタローヴァ

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : [https://www.perrotin.com/artists/Klara\\_Kristalova/29](https://www.perrotin.com/artists/Klara_Kristalova/29)

1967 年、チェコスロバキア ( 現・チェコ共和国 ) のプラハに生まれ、1 歳の時に家族とともにスウェーデンに移住する。1988 年から 93 年まで、Royal University College of Fine Art ( ストックホルム ) で学ぶ。北欧神話やアンデルセンの童話、古い DC コミックやオスカー・ワイルドの作品などに着想を得たファンタジックな磁器彫刻で知られ、これまでにロンドン、パリ、マイアミ、ニューヨーク、東京、香港、ソウルなど、欧米及びアジアの国々での個展・グループ展にて作品を展示している。日本国内では、現代美術家・奈良美智による私設のアートスペース「N's YARD」( 栃木県那須塩原市 ) に作品がおさめられている。

### 略歴

- 1967 チェコスロバキア ( 現・チェコ共和国 )、プラハ生まれ
- 1993 Royal University College of Fine Art ( ストックホルム、スウェーデン ) 卒業

### 主な個展・二人展

- 2007 「Two dark holes and other stories」 Galerie Perrotin ( マイアミ、アメリカ )
- 2009 「SITE」 Museum Site Santa Fe ( ニューメキシコ、アメリカ )
- 2011 「New Work: Tiago Carneiro da Cunha and Klara Kristalova」 SFMOMA ( サンフランシスコ、アメリカ )
- 「Sounds of Dogs and Youth」 Lehmann Maupin Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2014 「Turning into Stone」 Norton Museum of Art ( ウェスト・パームビーチ、アメリカ )
- 2016 「Hello Stranger」 Galerie Perrotin ( 香港、中国 )
- 2021 「The song of everything」 Carl Eldh's Studio Museum ( ストックホルム、スウェーデン )
- 「Soft Parade」 Perrotin ( ソウル、韓国 )

### 主なグループ展

- 1997 「Unga tecknare」 National museum ( ストックホルム、スウェーデン )
- 1999 「Networking」 P-house ( 東京 )
- 2009 「An Expanded Field of Opportunities」 Santa Barbara Contemporary Arts Forum ( サンタバーバラ、アメリカ )
- 2013 「Body and Soul: New International Ceramics」 Museum of Art and Design

- ( ニューヨーク、アメリカ )、Museum of Contemporary Art ( マイアミ、アメリカ )
- 2016 「Generosity: On the Art of Giving」 National Gallery ( プラハ、チェコ共和国 )  
「In the Search of Present」 Museum of Modern Art ( ヘルシンキ、フィンランド )
- 2017 「Superflat consideration on contemporary ceramics」 十和田市現代美術館 ( 青森 )
- 2020 「In the Name of Flower」 Pearl Art Museum ( 上海、中国 )  
「Human After All」 The Princessehof National Museum of Ceramics  
( レーワルデン、オランダ )

五木田 智央

## 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/3868/>

1969 年、東京に生まれる。90 年代後半に鉛筆、木炭やインクで紙に描いたドローイング作品で注目を集め、2000 年に作品集『ランジェリー・レスリング』を出版。ニューヨークでの展覧会を皮切りに、これまで国内外で多数の個展を開催。近年は白と黒の色彩で描く人物画など、具体的なモチーフを見せつつも抽象的なペインティング作品を手がけている。2012 年に DIC 川村記念美術館の「抽象と形態：何処までも躰れないもの」展に参加し、2014 年同館にて個展「THE GREAT CIRCUS」、2018 年 4 月には東京オペラシティ アートギャラリーにて個展「PEEKABOO」を開催。ファッションや音楽の分野でも高い支持を得ており、T シャツや CD / レコードジャケットなどにアートワークを提供している。

## 略歴

1969 東京都生まれ

## 主な個展

- 2000 「ランジェリー・レスリング」 渋谷パルコギャラリー ( 東京 )  
名古屋パルコギャラリー ( 愛知 )、福岡アルティアム ( 福岡 )
- 2002 「Tomoo Gokita LP Exhibition??」 LOS APSON? ( 東京 )  
「Morrow Master Cuts Vol.2」 康ギャラリー ( 東京 )
- 2003 「OH! 天国」 キリンプラザ大阪 ( 大阪 )、ナディッツギャラリー ( 東京 )
- 2004 「Black Gainers」 京都アートゾーン ( 京都 )
- 2005 「FINGER PRINCE」 ギャラリートラックス ( 山梨 )
- 2006 「Drunko」 ATM ギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2007 「Vanity Drunko」 オナー・フレイザー・ギャラリー ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2009 「Heaven」 オナー・フレイザー・ギャラリー ( ロサンゼルス、アメリカ )  
「Champion Carnival」 ATM ギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2010 「Funland」 アリスデイ ( ブリュッセル、ベルギー )  
「Wildest Dreams」 ATM ギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2012 「Secret Life」 ビル・ブレイディギャラリー・カンザスシティ  
( ミズーリ、アメリカ )  
「Variety Show」 タカ・イシイギャラリー ( 東京 )
- 2014 「THE GREAT CIRCUS」 DIC 川村記念美術館 ( 千葉 )

- メアリー・ブーン・ギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2015 「Damage Control」ビル・ブレイディ・ギャラリー ( マイアミ、アメリカ )  
「Bésame Mucho」オナー・フレイザー・ギャラリー ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2016 「Out of Sight」メアリー・ブーン・ギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2017 「Beauty」メアリー・ブーン・ギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ )  
「Holy Cow」タカ・イシイギャラリー ( 東京 )
- 2018 ブラム・アンド・ポー ( ロサンゼルス、アメリカ )  
「PEEKABOO」東京オペラシティアートギャラリー ( 東京 )  
「HOTEL PARAISO」マクナマラ・アート・プロジェクト ( 香港、中国 )
- 2020 「MOO」タカ・イシイギャラリー ( 東京 )  
「Game Over」マッシモ・デカルロ ( ミラノ、イタリア )
- 2021 「FRESH」ブラム・アンド・ポー ( ロサンゼルス、アメリカ )  
「Get Down」ダラス・コンテンポラリー ( テキサス、アメリカ )

### 主なグループ展

- 1990 「'90 Contemporary Art Festival」埼玉県立近代美術館 ( 埼玉 )
- 1997 「ニヨロ展」P-House ( 東京 )
- 2002 「East Meets West」コニングスビー・ギャラリー ( ロンドン、英国 )
- 2003 「Lead Poisoning」ニュー・イメージ・アート・ギャラリー  
( ロサンゼルス、アメリカ )  
「Jungle LP Show」ROCKET ( 東京 )
- 2005 「Remarkable Hands」ATMギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ )  
「Stranger Town」デインター・ファイン・アート ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2006 「Gallery Trax Selections'06」ギャラリートラックス ( 山梨 )
- 2007 「Mail Order Monsters」マックス・ウィグラム・ギャラリー ( ロンドン、英国 )  
ペレス・プロジェクト ( ベルリン、ドイツ )、アンドレアス・メラス・プレゼンツ  
( アテネ、ギリシャ )、ダイチ・プロジェクト ( ニューヨーク、アメリカ )  
「Summer group show」アリスデイ ( ブリュッセル、ベルギー )
- 2008 「Sonic Youth etc.: Sensational Fix」レ・ライフ ( サン・ナゼール、フランス )  
ムゼイオン近現代美術館 ( ボルツアーノ、イタリア ) 他
- 2009 「V O C A 展 2009」上野の森美術館 ( 東京 )  
「Gallery Trax Selections'09」ギャラリートラックス ( 山梨 )
- 2010 「Disorder Disorder – Ulterior Motives in Contemporary Art」  
ペンリス地区ギャラリー ( ニューサウスウェールズ、オーストラリア )  
「The お皿シヨウ~4人のPlate Painting」ギャラリー・ターゲット ( 東京 )
- 2011 「Black and White」ナンヅカ・アンダーグラウンド ( 東京 )

- 2012 「抽象と形態：何処までも隠れないもの」 DIC 川村記念美術館 (千葉)
- 2013 「ワンダフルマイアート高橋コレクションの作家たち」 河口湖美術館 (山梨)  
「20th Anniversary Trax Exhibition」 ギャラリートラックス (山梨)
- 2014 「OK, I'll rename it」 ビル・ブレイディ・ギャラリー (カンザスシティ、アメリカ)
- 2015 「A Shared Space」 テュレーン大学附属ニューカム美術館  
(ニューオリンズ、アメリカ)
- 2016 「片山正通的百科全書 Life is hard... Let's go shopping」  
東京オペラシティアートギャラリー (東京)  
「MOVED」 タカ・イシイギャラリー (東京)
- 2017 「高橋コレクション・マインドフルネス 2017」  
山形美術館 (山形)、タカ・イシイギャラリー (東京)  
「Third Space / Shifting Conversations about Contemporary Art」  
バーミングハム美術館 (バーミングハム、アメリカ)
- 2018 「21世紀の美術 タグチ・アートコレクション展アンディ・ウォーホルから奈良美智まで」 平塚市美術館 (神奈川)  
「THE UBIQUITY OF BORDERS : JAPANESE CONTEMPORARY」  
ギャラリー・バトン (ソウル、韓国)、タカ・イシイギャラリー (東京)
- 2019 「Vong Co RAHZI」 Blum & Poe (ロサンゼルス、アメリカ)  
「MCMXXXIV」 Massimo De Carlo (ミラノ、イタリア)  
「タカ・イシイギャラリー開廊 25周年記念グループ展：Survived!」  
タカ・イシイギャラリー (東京)
- 2020 「New Images of Man」 Blum & Poe (ロサンゼルス、アメリカ)

## セイヤー・ゴメス

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.sayregomez.com/>

Instagram : [@\\_sayre\\_gomez\\_](#)

1982 年、アメリカのシカゴに生まれる。School of the Art Institute of Chicago (シカゴ、アメリカ) で美術学士、California Institute of the Arts (カリフォルニア、アメリカ) で美術学修士を取得。エアブラシやステンシル、ハリウッドのセット制作に用いられる技法など様々なテクニックを駆使し、半架空の風景画を写実的に描く作品で知られる。ゴメスの絵画の多くはロサンゼルス、ロサンゼルス・カウンティ美術館 (ロサンゼルス、アメリカ)、ハマー美術館 (ロサンゼルス、アメリカ)、ホイットニー美術館 (ニューヨーク、アメリカ)、ニューサウスウェールズ州立美術館 (シドニー、オーストラリア)、ウィーン・ルートヴィヒ財団近代美術館 (ウィーン、オーストリア) などのパーマネントコレクションに収められている。

### 略歴

- 1982 アメリカ、シカゴ生まれ
- 2005 School of the Art Institute of Chicago (シカゴ、アメリカ) 美術学士取得
- 2008 California Institute of the Arts (バレンシア、アメリカ) 美術学修士取得

### 主な個展

- 2008 「Meaning」 D300 Gallery, California Institute of the Arts (バレンシア、アメリカ)  
「An Old Friend From the Future / Formal Exercise」 Sandroni Rey  
(ロサンゼルス、アメリカ)
- 2009 「Painting」 2nd Cannons (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2010 「Self Expression」 Fourteen 30 Contemporary (ポートランド、アメリカ)
- 2011 「Windows and Mirrors」 Kavi Gupta Gallery (シカゴ、アメリカ)  
「ZZYZX (with JPW3)」 Las Cienegas Projects (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2012 「This Is To Sink」 Michael Jon Gallery (マイアミ、アメリカ)  
「Slippery」 The HOLE(ニューヨーク、アメリカ)
- 2014 「I'm Different」 François Ghebaly (ロサンゼルス、アメリカ)  
「I'm Different II」 Parisa Kind (フランクフルト、アメリカ)
- 2015 「Collections and Accumulations」 Galerie Nagel Draxler (ケルン、ドイツ)

- 2016 「Feelings II」 Michael Jon Gallery ( マイアミ、アメリカ )
- 2017 「Déjà Vu」 François Ghebaly ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2018 「The Cabinet and the Vitrine」 Galerie Nagel Draxler ( ベルリン、ドイツ )
- 2019 「X-Scapes」 François Ghebaly ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2021 「True Crime」 Xavier Hufkens ( ブリュッセル、ベルギー )
- 「Apocalypse Porn」 François Ghebaly ( ニューヨーク、アメリカ )

### 主なグループ展

- 2011 「The Unseen」 Torrance Art Museum ( トーランス、アメリカ )
- 2017 「Unobstructed Views」 Museum of Contemporary Art Detroit  
( デトロイト、アメリカ )
- 2020 「L.A.: Views」 MAKI Gallery [表参道] ( 東京 )
- 「A Very Anxious Feeling: Voices of Unrest in the American Experience; 20 Years of the Beth Rudin DeWoody Collection」 Taubman Museum of Art  
( ロアノーク、アメリカ )
- 2021 「I Care Because You Do」 The Mass ( 東京 )

## 阪口 宗雲斎

1899年、大阪府に生まれる。本名要。15歳の頃、初代田辺竹雲斎(1877-1937)に師事し24歳の頃独立。卓越した技術と独創的な意匠で早くから高い評価を得た。1929年の第10回帝展に竹工芸界で初めて入選。その作品「果物籃 水月」は、竹で作った作品がアートとして評価された最初の作品と位置付けられている。以後帝展、文展、日展に入選を重ねる。1945年、堺空襲で被災し、京都府福知山市に転居する。翌年から7年間兵庫県立職業訓練指導所で次世代の竹工芸家を指導した。また、作品はメトロポリタン美術館(ニューヨーク、アメリカ)やサンフランシスコアジア美術館(サンフランシスコ、アメリカ)ほか、国内外で收藏されている。

### 略歴

- 1899 大阪府生まれ
- 1892 頃 初代田辺竹雲斎に師事
- 1929 第10回帝展に初入選
- 1930 浪華籃友会参加
- 1933 無弦社社友
- 1935 創工社会員
- 1937 京都府にて逝去

## マシュー・デイ・ジャクソン

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.hauserwirth.com/artists/2827-matthew-day-jackson/>

Instagram : [@matthewdayjackson](https://www.instagram.com/matthewdayjackson)

1974 年、アメリカのワシントン州ポートランドに生まれる。ワシントン大学（シアトル、アメリカ）を卒業後、版画制作者として働いたのち、ラトガース大学メイソン・グロス芸術学校（ニューブランズウィック、アメリカ）で学ぶ。枯れ木やリサイクル品、ネオン、骸骨など、さまざまな素材を利用し、平面、彫刻、インスタレーション、写真、映像などを手がける。近年は原子爆弾が文化にもたらした影響に着目しながら、技術化された現代社会のユートピア的かつディストピア的な側面を浮き彫りにする作品を制作。2015 年に広島市現代美術館で開催された展覧会「俯瞰の世界図」では、空爆された都市の姿を表した平面作品《1945 年 8 月 6 日》を出品した。ジャクソンの作品は、ホイットニー美術館（ニューヨーク、アメリカ）、ハイ美術館（アトランタ、アメリカ）、ステデリック・ミュージアム（アムステルダム、オランダ）などのパーマネントコレクションに収められている。

### 略歴

- 1974 アメリカ、カリフォルニア州ポートランド生まれ
- 1997 University of Washington (シアトル、アメリカ) 美術学士取得
- 2001 Mason Gross School of the Arts, Rutgers University  
(ニューブランズウィック、アメリカ) 美術学修士取得

### 主な個展

- 2006 「Paradise Now!」 Portland Institute of Contemporary Art (ポートランド、アメリカ)
- 2009 「The Immeasurable Distance」 Contemporary Arts Museum  
(ヒューストン、アメリカ)
- 2011 「In Search of...」 MAMbo Museo d'Arte Moderna in Bologna  
(ボローニャ、イタリア)
- 2019 「Matthew Day Jackson: Maa」 Serlachius Museums (マンタ、フィンランド)

### 主なグループ展

- 2006 Whitney Biennale 「Day for Night」 Whitney Museum of American Art  
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2007 「Uncertain States of America – American Art in the 3rd」 Beijing Biennale

( 北京、中国 )

2009 「The World Is Yours」 Louisiana Museum of Modern Art  
( フムレベック、デンマーク )

2011 「Singular Visions」 Whitney Museum of American Art ( ニューヨーク、アメリカ )

2014 「National Pride (and Prejudice)」 Museum of Fine Arts ( ボストン、アメリカ )

2015 「俯瞰の世界図」 広島市現代美術館 ( 広島 )

2020 「The World: From The OKETA COLLECTION」 金沢 21 世紀美術館 ( 石川 )

## ジャン・ジュリアン

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.jeanjullien.com/>

Instagram : [@jean\\_julien](#)

1983 年、フランスのシヨレに生まれ、ナントで育つ。2008 年にロンドンのセントラル・セントマーチンズを卒業後、2010 年にロイヤル・カレッジ・オブ・アートにて修士号を取得。イラストレーターとして、New York Times、National Geographic、RCA Records、Le Centre Pompidou、Hermès、Petit Bateau、Vogue など様々なクライアントに作品を提供する傍ら、ペインティング作品の製作も精力的に行っており、サンフランシスコ、ロンドン、ベルリン、シンガポールなど世界各地で展覧会を開催している。

2015 年 11 月に起きたパリ同時多発テロ事件を受けて制作した、ピースマークにエッフェル塔のシルエットを組み合わせたドローイング「Peace for Paris」は、ソーシャルメディアやニュース記事を通じて世界中に拡散し、反テロリズムのシンボルとなった。

### 略歴

- 1983 フランス、シヨレ生まれ
- 2008 セントラル・セントマーチンズ ( ロンドン、英国 ) 美術学士取得
- 2010 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート ( ロンドン、英国 ) 美術学修士取得

### 主な個展

- 2014 Kemistry Gallery ( ロンドン、英国 )
- 2015 「POOR TRAITS」 HVW8 ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2017 「FLAT OUT」 HVW8 ( ベルリン、ドイツ )  
「THE PEOPLE」 GROOVE ( バンコク、タイ )
- 2018 「同じ海」 Gallery Target ( 東京 )
- 2021 「DRAWN」 Gallery Target ( 東京 )  
「PAPER PEOPLE」 PARCO MUSEUM TOKYO ( 東京 )  
「Petite Pêche」 3110NZ ( 東京 )

## ラッシュード・ ジョンソン

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.hauserwirth.com/artists/2830-rashid-johnson/>

Instagram : [@rashidjohnson](https://www.instagram.com/rashidjohnson)

1977 年、アメリカのシカゴに生まれる。Columbia College Chicago (シカゴ、アメリカ) で美術学士を、The School of the Art Institute of Chicago (シカゴ、アメリカ) で美術学修士を取得。写真にはじまり、絵画、彫刻、映像、インスタレーションなど、多様な表現方法を駆使して作品を制作し、ポスト・ブラック・アートの代表的アーティストとの呼び声も高い。2012 年、シカゴ現代美術館 (シカゴ、アメリカ) で初の大規模な個展「Rashid Johnson: Message to Our Folks」を開催。2019 年には長編映画監督デビュー作となる「Native Son (邦題 ネイティブ・サン〜アメリカの息子)」を発表。同作で NAACP (全米黒人地位向上協会) が主催する NAACP Image Award を受賞した。

### 略歴

- 1977 アメリカ、イリノイ州シカゴ生まれ
- 2000 Columbia College Chicago (シカゴ、アメリカ) 美術学士取得
- 2005 The School of the Art Institute of Chicago (シカゴ、アメリカ) 美術学修士取得

### 主な個展

- 2002 「12x12: New Artist/New Work」 Museum of Contemporary Art Chicago[MCA] (シカゴ、アメリカ)
- 2005 「The Production of Escapism」 Indianapolis Museum of Contemporary Art (インディアナポリス、アメリカ)
- 2008 「The Dead Lecturer」 Nicole Klagsbrun Gallery (ニューヨーク、アメリカ)  
「Sharpening My Oyster Knife」 Kunstmuseum Magdeburg (マクデブルク、ドイツ)
- 2009 「Smoke and Mirrors」 Sculpture Center (ニューヨーク、アメリカ)
- 2012 「Rashid Johnson: Message to Our Folks」 Museum of Contemporary Art Chicago [MCA] (シカゴ、アメリカ)
- 2014 「New Growth」 Museum of Contemporary Art, Denver (デンバー、アメリカ)
- 2015 「Anxious Men」 The Drawing Center (ニューヨーク、アメリカ)  
「Shea Wall」 Grand Palais (パリ、フランス)
- 2016 「Rashid Johnson. Within Our Gates」 Garage Museum of Contemporary Art (モスクワ、ロシア)
- 2017 「Rashid Johnson. The New Black Yoga and Samuel in Space」 McNay Art Museum

- ( サンアントニオ、アメリカ )  
 「Rashid Johnson. Hail We Now Sing Joy」 The Kemper Museum of Contemporary Art  
 ( カンザスシティ、アメリカ )
- 2018 「Rashid Johnson. No More Water」 Lismore Castle Arts ( リズモア、アイルランド )
- 2019 「Rashid Johnson. The Hikers」 Aspen Art Museum ( アスペン、アメリカ )  
 「Rashid Johnson. Los Senderistas」 Museo Tamayo ( メキシコシティ、メキシコ )
- 2021 「The Crisis」 Storm King Art Center ( ニューウィンザー、アメリカ )

### 主なグループ展

- 2000 「A Decade of Acquisitions」 Detroit Institute of Arts ( デトロイト、アメリカ )
- 2001 「Freestyle」 Studio Museum in Harlem ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2002 「Manumission Papers」 Sunrise Museum ( チャールストン、アメリカ )
- 2003 「The Squared Circle: Boxing in Contemporary Art」 Walker Art Center  
 ( ミネアポリス、アメリカ )
- 2004 「Only Skin Deep: Changing Visions of the American Self」 Seattle Art Museum  
 ( シアトル、アメリカ )  
 「Common Ground: Discovering Community in 150 Years of Art」  
 Corcoran Museum of Art ( ワシントン D.C.、アメリカ )
- 2006 「Scarecrow」 Postmasters ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「American Identities」 Brooklyn Museum of Art ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2007 「Color Line」 Luanda Triennial in Angola/Jack Shainman Gallery  
 ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2008 「30 Americans」 The Rubell Family Collection ( マイアミ、アメリカ )
- 2009 「Under Control」 Krannert Art Museum ( シャンペーン、アメリカ )  
 「Across the Divide: Reconsidering the Other」 Illinois State Museum  
 ( シカゴ、アメリカ )
- 2010 「From Then to Now: Masterworks of African American Art」  
 Museum of Contemporary Art Cleveland[MOCA] ( クリーブランド、アメリカ )
- 2011 54th Venice Biennale 「ILLUMInations」 ( ヴェネツィア、イタリア )
- 2012 「Heute. Malerei」 Kunstmuseum Magdeburg ( マクデブルク、ドイツ )  
 Shanghai Biennale 「Re-activation」 ( 上海、中国 )
- 2013 「Darkness Visible」 National Art Museum of China ( 北京、中国 )
- 2016 「The Forever Now: Contemporary Painting in an Atemporal World」  
 Museum of Modern Art[MoMA] ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「Variations: Conversations in and Around Abstract Painting」  
 Los Angeles County Museum of Art[LACMA] ( ロサンゼルス、アメリカ )

- 「Black in the Abstract, Part 2: Hard Edges/Soft Curves」  
Contemporary Arts Museum Houston ( ヒューストン、アメリカ )
- 「America is Hard to See」 The Whitney Museum of American Art  
( ニューヨーク、アメリカ )
- 「Storylines: Contemporary Art at the Guggenheim」 Guggenheim Museum  
( ニューヨーク、アメリカ )
- 2017 「99 cents or less」 Museum of Contemporary Art Detroit ( デトロイト、アメリカ )
- 「Please fasten your seat belt as we are experiencing some turbulence」  
Leo Xu Projects ( 上海、中国 )
- 「Art/Africa, le nouvel atelier」 Fondation Louis Vuitton ( パリ、フランス )
- 「The Art Show」 群馬県立近代美術館 ( 群馬 )
- 2018 「Chaos and Awe: Painting for the 21st Century」 Frist Art Museum  
( ナッシュビル、アメリカ ) ほか巡回
- 「Michael Jackson. On the Wall」 National Portrait Gallery  
( ロンドン、英国 ) ほか巡回
- 「Present Tense: Selections from the Lenhardt Collection」  
Phoenix Art Museum ( フェニックス、アメリカ )
- 2019 「New Prints 2019/Winter」 International Print Center New York  
( ニューヨーク、アメリカ )
- 「New Age, New Age: Strategies for Survival」 DePaul Art Museum  
( シカゴ、アメリカ )
- 2021 「Grief and Grievance: Art and Mourning in America」 New Museum  
( ニューヨーク、アメリカ )

### 主な受賞歴

- 2012 David C. Driskell Prize ( アメリカ )
- 2017 Panerai Design Miami Vision Award, Mwabwindo School project ( アメリカ )  
Tony Goldman Visionary Artist Award ( アメリカ )
- 2018 Aspen Award for Art ( アメリカ )
- 2020 NAACP Image Award for Outstanding Directing in a Television Movie ( アメリカ )

## チャバララ・セルフ

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://tschabalalaselself.com/>

Instagram : [@tschabalalaselself](https://www.instagram.com/tschabalalaselself)

1990 年、ニューヨークのハーレムに生まれる。Yale School of Art (コネチカット州ニューヘブ  
ン、アメリカ)にて絵画・版画を専攻し、2015 年美術学修士を取得。同年、Schur-Narula (ベ  
ルリン、ドイツ)にて初個展「Head over Heels」を開催。翌 2016 年、Thierry Goldberg (ニ  
ューヨーク、アメリカ)で開催した個展がニューヨーク・タイムズ紙のレビューで絶賛され注  
目を集める。ドローイングや手刷りの布、刺繍などを組み合わせたカラフルなコラージュによ  
って、アフリカ系アメリカ人の女性を描いた作品で知られる。作品はハマー美術館 (ロサンゼ  
ルス、アメリカ)、ベレス美術館 (マイアミ、アメリカ)、JP モルガン・チェース・アートコレ  
クションなどのパブリックあるいはプライベートコレクションに収蔵されている。

### 略歴

- 1990 アメリカ、ニューヨーク生まれ
- 2012 Bard College (ニューヨーク、アメリカ) BA in Studio Arts 取得
- 2015 Yale School of Art (ニューヘブン、アメリカ) MFA in Painting/Printmaking 取得

### 主な個展

- 2015 「Head over Heels」 Schur-Narula (ベルリン、ドイツ)  
「Tropicana」 The Cabin LA (ロサンゼルス、アメリカ)  
「Out of Body」 Thierry Goldberg Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2016 「The Function」 T293 Naples (ナポリ、イタリア)  
「Gut Feelings」 Thierry Goldberg (ニューヨーク、アメリカ)
- 2017 Frye Art Museum (シアトル、アメリカ)  
「Bodega Run」 Hammer Museum (ロサンゼルス、アメリカ) ほか巡回  
Parasol unit foundation for contemporary art (ロンドン、英国)  
「Sour Patch」 Thierry Goldberg MIAMI (マイアミ、アメリカ)
- 2019 Art Omi Ghent (ニューヨーク、アメリカ)  
「Thigh High」 Pilar Corrias Gallery (ロンドン、英国)
- 2020 「Out of Body」 ICA Institute of Contemporary Art (ボストン、アメリカ)  
「Cotton Mouth」 Eva Presenhuber (ニューヨーク、アメリカ)
- 2021 「By My Self」 Baltimore Museum of Art (ボルチモア、アメリカ)

## 主なグループ展

2015 「A Constellation」 The Studio Museum in Harlem ( ニューヨーク、アメリカ )

2019 「Mood」 MoMA PS1 in collaboration with Studio Museum of Harlem  
( ニューヨーク、アメリカ )

「Present Tense: Recent Gifts of Contemporary Art」 Philadelphia Museum  
( フィラデルフィア、アメリカ )

## TIDE ( タイド )

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://henkyo.jp/artist/tide/>

1984 年、静岡県生まれ。20 代前半に滞在していたオーストラリアで漫画家・歴史家の水木しげるの作品に出会い、独学で絵を描き始める。2009 年に東京に戻り、アーティストとしての活動を本格的にスタート。

## マンゴ・トムソン

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://mungothomson.com/>

Web : <https://www.makigallery.com/artists/1011/>

Twitter : [@MungoThomson](https://twitter.com/MungoThomson)

Instagram : [@mungothomson](https://www.instagram.com/mungothomson)

1969 年、カリフォルニア州デビスに生まれる。カリフォルニア大学サンタクルーズ校にて美術学士、UCLA Interdisciplinary Studio にて美術学修士を取得。フィルムや音、オブジェなどと印刷物やアーカイブとを融合させ、つねにそれらと接点を持ち続けることをコンセプトに、慣例や通常の認識を覆す作品をつくり出すことで知られている。2019 年、日本での初個展となる「Rods and Cones」を MASAHIRO MAKI GALLERY ( 現 MAKI Gallery ) で開催。以降 2020 年に「Archives」( MAKI Gallery )、2021 年に「Nagori Yuki」( 伊勢丹新宿店 ) と続けて個展を開催し注目を集めている。

### 略歴

- 1969 アメリカ、カリフォルニア州デビス生まれ
- 1991 カリフォルニア大学サンタクルーズ校 美術学士取得
- 1994 ホイットニー美術館 ( ニューヨーク、アメリカ ) にて Independent Study Program 参加
- 2000 UCLA Interdisciplinary Studio ( ロサンゼルス、アメリカ ) 美術学修士取得

### 主な個展

- 1995 「Mungo Thomson」 Stefany Martz Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 1996 「Rest Area」 Stefany Martz Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 1998 「Levitating In My Studio」 The Hole、Postmasters Gallery  
( ニューヨーク、アメリカ )
- 2000 「Mungo Thomson」 Margo Leavin Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2004 「Centric 65」 California State University Art Museum ( ロングビーチ、アメリカ )
- 2005 「New York, New York, New York, New York」 John Connelly Presents  
( ニューヨーク、アメリカ )
- 2006 「Art Statements」 Art Basel 37 ( バーゼル、スイス )  
「Negative Space Variations」 Galleria d'Arte Moderna e Contemporanea di Bergamo  
( ベルガモ、イタリア )
- 2007 「Mungo Thomson: Between Projects」 KADIST ( パリ、フランス )

- 2008 「Einstein #1」 Margo Leavin Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「Hammer Projects: Mungo Thomson」 UCLA Hammer Museum  
 ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2009 「Silent Film of a Tree Falling in the Forest」 SCREENING  
 ( フィラデルフィア、アメリカ )  
 「The Varieties of Experience」 John Connelly Presents ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「Resort, A Station for Display」 LAXART ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2010 「Mungo Thomson」 Gavlak ( パームビーチ、アメリカ )  
 「New Year 7: Mungo Thomson」 Western Bridge ( シアトル、アメリカ )
- 2012 「Levitating Mass」 Aspen Art Museum ( アスペン、アメリカ )  
 「Mungo Thomson」 The Apartment ( バンクーバー、カナダ )
- 2013 「Time, People, Money, Crickets」 SITE Santa Fe ( サンタフェ、アメリカ )  
 「Crickets」 Times Museum ( 広州市、中国 )  
 「Mungo Thomson」 galerie frank elbaz ( パリ、フランス )  
 「Negative Space」 Contemporary Art Gallery ( バンクーバー、カナダ )
- 2014 「Crickets for Solo and Ensemble」 Artpace ( サンアントニオ、アメリカ )  
 「Wall, Window or Bar Signs」 KADIST ( サンフランシスコ、アメリカ )
- 2015 「Time, People, Money, Crickets」 Contemporary Art Gallery  
 ( バンクーバー、カナダ )
- 2016 「Why Does the World Exist?」 galerie frank elbaz ( パリ、フランス )
- 2018 「American Desert (for Chuck Jones)」 MFA Contemporary @ Heights Mercantile  
 ( ヒューストン、アメリカ )  
 「Composition for 52 Keys」 Henry Art Gallery ( シアトル、アメリカ )
- 2019 「Rods and Cones」 MAKI Gallery [表参道] ( 東京 )  
 「Background Extinction」 galerie frank elbaz ( ダラス、アメリカ )
- 2020 「Archives」 MAKI Gallery [表参道] ( 東京 )
- 2021 「Nagori Yuki」 伊勢丹新宿店 ( 東京 )

### 主なグループ展

- 2002 「Videodrome II」 New Museum of Contemporary Art ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2008 「Sudden White (After London)」 Royal Academy of Art ( ロンドン、英国 )
- 2009 「Looking Through the Other End of the Telescope」  
 Scotsdale Museum of Contemporary Art ( スコッツデール、アメリカ )  
 「Compilation IV」 Kunsthalle Düsseldorf ( デュッセルドルフ、ドイツ )
- 2011 「Play Ground」 New Walk Museum and Art Gallery ( レスター、英国 )
- 2012 「Lifelike」 Walker Art Center ( ミネアポリス、アメリカ )

- 2013 「第5回恵比寿映像祭『PUBLIC⇔DIARY』」 東京都写真美術館 (東京)
- 2014 「Golden State」 Museum of Contemporary Art (ツーソン、アメリカ)  
「California Landscape Into Abstraction」 Orange County Museum of Art  
(ニューポートビーチ、アメリカ)
- 2016 「Ordinary Pictures」 Walker Art Center (ミネアポリス、アメリカ)
- 2017 「L.A. Exuberance: New Gifts by Artists」 Los Angeles County Museum of Art  
(ロサンゼルス、アメリカ)  
「The Arcades: Contemporary Art and Walter Benjamin」  
The Jewish Museum (ニューヨーク、アメリカ)
- 2018 「Stories of Almost Everyone」 Hammer Museum (ロサンゼルス、アメリカ)

## 名和 晃平

### 関連URL・SNS情報

Web : <http://www.kohei-nawa.net/>

Instagram : @nawa\_kohei

彫刻家 / Sandwich Inc.主宰 / 京都芸術大学教授

1975年生まれ。京都を拠点に活動。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。感覚に接続するインターフェイスとして、彫刻の「表皮」に着目し、セル（細胞・粒）という概念を機軸として、2002年に「PixCell」を発表。彫刻の定義を柔軟に解釈し、鑑賞者に素材の物性がひらかれるような知覚体験を生み出してきた。2018年にフランス・ルーヴル美術館のピラミッド内にて彫刻作品『Throne』を特別展示。同年、PACE Palo Altoにて個展「Trans-figure」を開催。2021年、ベルギーの振付家兼ダンサーのダミアン・ジャレとの協働によるパフォーマンス作品『Planet [wanderer]』を欧州で公演。同年、SCAI THE BATHHOUSEにて個展「TORNSCAPE」を開催。

### 略歴

- 1975 大阪府生まれ
- 1998 京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業
- 1999 英国王立美術院 ( Royal College of Art, Sculpture course ) 交換留学
- 2003 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了  
博士第一号取得
- 2009 創作のためのプラットフォーム「Sandwich」( 京都 ) を創設
- 2010 京都造形芸術大学 ( 現・京都芸術大学 ) 大学院特任准教授に就任  
現在は教授を務める

### 主な個展

- 2003 「PixCell」ノマルエディション/プロジェクト・スペース ( 大阪 )
- 2009 「L\_B\_S」銀座メゾンエルメスフォーラム ( 東京 )
- 2011 「名和晃平 - シンセシス」東京都現代美術館 ( 東京 )
- 2013 「名和晃平 - SCULPTURE GARDEN」霧島アートの森 ( 鹿児島 )
- 2015 「名和晃平 - FORCE」スカイザバスハウス ( 東京 )
- 2017 「VESSEL | Kohei Nawa」ARARIO GALLERY SHANGHAI ( 上海、中国 )
- 2018 「Throne」Louvre Museum ( パリ、フランス )
- 2019 「Foam」金沢21世紀美術館 ( 石川 )

## 主なグループ展

- 2003 「京都府美術工芸新鋭選抜展」京都文化博物館（京都）
- 2007 「六本木クロッシング 2007：未来への脈動」森美術館（東京）
- 2009 「ネオテニー・ジャパン 高橋コレクション」上野の森美術館（東京）
- 2010 「釜山ビエンナーレ 2010：Living in Evolution」（釜山、韓国）  
「第14回アジアン・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ 2010」  
（ダッカ、バンガラデシュ）
- 2013 「あいちトリエンナーレ2013」（愛知）
- 2019 「百年の編み手たち -流動する日本の近現代美術-」東京都現代美術館（東京）  
「The Life of Animals in Japanese Art」The National Gallery of Art  
（ワシントンD.C.、アメリカ）
- 2020 「京都の美術 250年の夢」京都市京セラ美術館（京都）
- 2021 「森と水と生きる」長野県立美術館（長野）

## 主な受賞歴

- 2003 京都府美術工芸新鋭選抜展最優秀賞
- 2005 京都市芸術文化特別奨励者
- 2010 第14回アジアン・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ2010最優秀賞
- 2011 平成23年度京都市芸術新人賞
- 2017 平成29年度京都府文化賞 功労賞
- 2019 第32回京都美術文化賞

## ブライアン・ハート

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://brianharte.ie/>

Web : <https://www.makigallery.com/artists/4989/>

Instagram : [@brian\\_harte](https://www.instagram.com/brian_harte)

1978 年、アイルランドのサウスティペラリーに生まれる。2001 年、Crawford College of Art and Design (アイルランド) において美術学士を取得。現在まで同国を拠点に活動をしている。壮大なスケールのキャンバス作品で知られるハートは、自身の私生活の痕跡を残しつつ、解体された部屋の構成を具象と抽象の狭間で揺らめくようなタッチで描きだす。その作品は多数のパブリック、あるいはプライベートコレクションに収蔵されており、近年ではドイツのヴォルフスブルクの美術館 Kunstmuseum Wolfsburg が彼の作品 2 点をパーマネントコレクションに加えた。2020 年には GNYP Gallery (ベルリン、ドイツ) と共同で、過去 5 年におよぶ作品を収めた図録『Bread (and other paintings)』を出版した。

### 略歴

- 1978 アイルランド、サウスティペラリー生まれ
- 2001 Crawford College of Art & Design (コーク、アイルランド) 美術学士取得

### 主な個展

- 2002 「U-boat」 South Tipperary Arts Centre (クロンメル、アイルランド)
- 2004 「Zephyr and Chlora」 Form Gallery (コーク、アイルランド)
- 2005 「Paintings from Summerhill」 Origin Gallery (ダブリン、アイルランド)
- 2005 「Bookbox collaboration with Glenn Fitzgerald」 Cork City Library (コーク、アイルランド)
- 2006 「Cartoons from Summerhill」 The Narrow space Gallery (ティペラリー、アイルランド)
- 2008 「Thirty」 Origin gallery (ダブリン、アイルランド)
- 2010 「No Romance」 Origin Gallery (ダブリン、アイルランド)
- 2011 「The Gadfly, Ffrench/Harte」 National Sculpture Factory (コーク、アイルランド)
- 2011 「The Gadfly, Ffrench/Harte」 Kinsale Arts Week (キンセール、アイルランド)
- 2011 「The Gadfly, Ffrench/Harte」 Commonage Callan (キルケニー、アイルランド)
- 2013 The Sovereigns: Art and Artifact, Kinsale Arts Festival (コーク、アイルランド)
- 2013 「The Sovereigns, Ffrench/Harte」 Mermaid Arts Centre

- ( ウィックロー、アイルランド )
- 2017 「Family」 GNYP Gallery ( ベルリン、ドイツ )
- 2018 「This life domestic」 Ever Gold [Projects] ( サンフランシスコ、アメリカ )
- 2019 Paris Art Fair ( Solo Booth ) GNYP Gallery ( パリ、フランス )
- 2019 「X will mark the place」 GNYP Gallery ( ベルリン、ドイツ )
- 2020 「Subbuteo」 These Days Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2020 「Everything you touch」 GNYP Gallery ( ベルリン、ドイツ )
- 2020 「Table Manners」 Jac Forbes Gallery ( マリブ、アメリカ )
- 2021 「Endless Worlds」 Annarumma Gallery ( ナポリ、イタリア )
- 2021 「8 Paintings ( from the midlands )」 MAKI Gallery [表参道] ( 東京 )

### 主なグループ展

- 2001 「Drawing and Religion」 St Finbarrs Cathedral ( コーク、アイルランド )
- 2002 「Fledglings」 Lavitt Gallery ( コーク、アイルランド )
- 2003 「Holier than thou」 Urban Retreat Gallery ( ダブリン、アイルランド )
- 2003 「Christmas showcase」 Lavitt Gallery ( コーク、アイルランド )
- 2004 Wexford Opera Festival ( ウェクスフォード、アイルランド )
- 2004 London Arts Fair ( ロンドン、英国 )
- 2004 「Atlantic」 Catherine Hammond Gallery ( コーク、アイルランド )
- 2005 「Across Boundaries」 Office of Public Works OPW, DFP [巡回展]  
( ダブリン / リーシュ / ウェクスフォード / コーク、アイルランド ;  
ティロン / ダウン、北アイルランド )
- 2007 「Catalyst Arts Belfast Members Show」 Catalyst Arts  
( ベルファスト、北アイルランド )
- 2007 「Tulca」 G126 Gallery ( ゴールウェイ、アイルランド )
- 2008 「Tea Chest curated by Trish Edilstein」 Cork City Library ( コーク、アイルランド )
- 2008 「Group show curated by Mareta Doyle」 Kinsale Arts Week  
( キンセール、アイルランド )
- 2009 「Irish Artists at the Queens Elm Court」 Fulham Rd. ( ロンドン、英国 )
- 2010 「Backwater Twenty 10 curated by Stephen Brandes and Vera Ryan」  
Crawford Municipal Gallery ( コーク、アイルランド )
- 2010 「Put a lid on it curated by Siobhán McGibbon & Zulaikha Engelbrecht」  
Galway Arts Centre ( ゴールウェイ、アイルランド )
- 2011 「Eigse Arts Festival, Ffrench/ Harte」 VISUAL ( カーロー、アイルランド )
- 2012 「Point to Point curated by Gemma Tipton」  
Kinsale Arts Week ( キンセール、アイルランド )

- 2013 「Wool House」 Somerset House ( ロンドン、英国 )
- 2015 Royal Hibernian Academy, 185 Annual Summer Exhibition  
( ダブリン、アイルランド )
- 2016 「Human Condition curated by John Wolfe」 ICM 他 ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2018 「Now is the time」 Kunstmuseum Wolfsburg ( ヴォルフスブルク、ドイツ )
- 2019 「Gold Standard」 Ever Gold [Projects] ( サンフランシスコ、アメリカ )
- 2020 「Vision X」 RHA Gallery ( ダブリン、アイルランド )
- 2020 「Summer Viewing Room」 Ever Gold [Projects] ( サンフランシスコ、アメリカ )
- 2020 「Annual Winter Show」 Galleri Christoffer Egelund ( コペンハーゲン、デンマーク )

### 受賞歴

- 2001 Purchase Prize for Painting, Vanguard Gallery ( コーク、アイルランド )
- 2001 Purchase Prize for Drawing, Bewleys Ireland ( アイルランド )
- 2001 Purchase Prize for Painting, University College Cork ( コーク、アイルランド )
- 2011 New Project Award, Arts Council of Ireland ( アイルランド )
- 2012 New Project Award, Arts Council of Ireland ( アイルランド )
- 2013 Visual Arts Bursary Award, Cork County Council ( コーク、アイルランド )
- 2014 Professional Artists Grant, Tipperary County Council ( ティペラリー、アイルランド )
- 2016 Professional Artists Grant, Tipperary County Council  
( ティペラリー、アイルランド )
- 2020 Visual Arts Bursary Award, Arts Council of Ireland ( アイルランド )

## シュテファン・バルケンホール

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <http://tomiokoyamagallery.com/artists/stephan-balkenhol/>

1957 年、ドイツのヘッセン州フリッツラーに生まれる。ハンブルク造形大学で彫刻家ウルリッヒ・リュックリームに師事。現在はドイツのカールスルーエ造形大学で教授を務める。

1 本の木から台座ごと掘り出す人体彫刻を制作しており、男女の身体的特徴、表情や身ぶりが排された人物像は、どこの誰でもなく誰でもありうるという意味で、「ミスター・エヴリマン」と呼ばれる。ミニマリズムの潮流や、政治との関わりが深い 19 世紀の彫刻の歴史を踏まえ、初期より一貫してミニマルな要素と具象を融合させた彫刻を追求している。

日本では 2005 年に初個展「シュテファン・バルケンホール：木の彫刻とレリーフ」を国立国際美術館（大阪）と東京オペラシティアートギャラリー（東京）で開催し、大きな話題となった。シカゴ美術館（シカゴ、アメリカ）、ロサンゼルス・カウンティ美術館（ロサンゼルス、アメリカ）、フランクフルト現代美術館（フランクフルト、ドイツ）、東京国立近代美術館（東京）など、数多くの美術館に作品が収蔵されている。

### 略歴

- 1957 ドイツ、ヘッセン州フリッツラー生まれ
- 1976 ハンブルク造形美術大学（ハンブルク、ドイツ）でウルリッヒ・リュックリームに師事、その後スタジオアシスタントを務める
- 1992 カールスルーエ造形大学（カールスルーエ、ドイツ）の教授に就任

### 主な個展

- 1995 ハーシュホーン美術館（ワシントン D.C.、アメリカ）
- 1996 サーチギャラリー（ロンドン、英国）
- 2003 シュプレングル美術館（ハノーバー、ドイツ）
- 2005 「シュテファン・バルケンホール：木の彫刻とレリーフ」 国立国際美術館（大阪）  
東京オペラシティアートギャラリー（東京）他
- 2008 ダイヒトーアハレン（ハンブルク、ドイツ）
- 2010 グルノーブル美術館（グルノーブル、フランス）
- 2019 小山登美夫ギャラリー（東京）

### 主なグループ展

- 1987 「ミュンスター彫刻プロジェクト」（ミュンスター、ドイツ）

- 1990 「Possible Worlds: Sculpture from Europe」 ICA ( ロンドン、英国 )
- 1992 「Doubletake」 Hayward Gallery ( ロンドン、英国 ) 他
- 1992 「Post Human」 FAE 現代美術館 ( ローザンヌ、スイス ) 他
- 1995 「1995 Carnegie International」 カーネギー美術館 ( ピッツバーグ、アメリカ )

## 平子 雄一

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://kotaronukaga.com/artist/yuichi-hirako/>

Twitter : [@yuichihirako](https://twitter.com/yuichihirako)

Instagram : [@yuichihirako](https://www.instagram.com/yuichihirako)

1982 年、岡山県に生まれる。2006 年、Wimbledon College of Arts ( 英国 ) の Fine Art: Painting にて美術学士を取得。植物や自然と人間の共存について、また、その関係性の中に浮上する曖昧さや疑問をテーマに制作を行う。観葉植物や街路樹、公園に植えられた植物など、人によってコントロールされた植物を「自然」と定義することへの違和感をきっかけに、現代社会における自然と人間との境界線を、作品制作を通して追求している。ペインティングを中心に、ドローイングや彫刻、インスタレーション、サウンドパフォーマンスなど、表現手法は多岐にわたる。現在は東京を拠点に活動し、デンマーク、オランダ、シンガポール、台湾、韓国など、国外でも精力的に作品を発表している。作品の主な収蔵先は、LISSER ART MUSEUM ( リッセ、オランダ )、Akzonobel Art Foundation ( アムステルダム、オランダ )、Jean Pigozzi Collection ( スイス ) など。

### 略歴

1982 岡山県生まれ

2006 Wimbledon College of Arts ( ロンドン、英国 ) 美術学士取得

### 主な個展

2010 「庭先メモリーズ」 GALLERY MoMo Ryogoku ( 東京 )

2011 「平子雄一展」 SATELLITE ( 岡山 )

2012 「SLEEPING IN THE PINE FOREST」 Galleri Christoffer Egelund  
( コペンハーゲン、デンマーク )

「庭先メモリーズ：見えない森」 INAX GALLERY ( 東京 )

「The Wooden Clapper」 The Drawing Room ( マニラ、フィリピン )

2013 「The Leaf Scar」 WAITINGROOM ( 東京 )

「The Thick Forest」 The Drawing Room ( シンガポール )

「The Forest City」 YIRI ARTS Fujin Space ( 台北、台湾 )

2014 「The Bark of Mind」 Galleri Christoffer Egelund ( コペンハーゲン、デンマーク )

「Wooden Works」 hpgrp Gallery Tokyo ( 東京 )

2015 「Grafted Tree」 WAITINGROOM ( 東京 )

- 「Bark Feeder」 第一生命ギャラリー ( 東京 )
- 2016 「Phantom Forest」 YIRI ARTS Pier-2 Space ( 高雄、台湾 )  
 「Our way to the Forest」 Fouladi Projects ( サンフランシスコ、アメリカ )
- 2017 「Greening」 WAITINGROOM ( 東京 )  
 「SPROUT」 Galleri Christoffer Egelund ( コペンハーゲン、デンマーク )
- 2018 「Dazzling Leaves」 Zerp Galerie ( ロッテルダム、オランダ )  
 「Project N 71 平子雄一」 東京オペラシティアートギャラリー ( 東京 )  
 「Seeding」 YIRI Arts Taichung Space ( 台中、台湾 )
- 2019 「Dandelion」 Zerp Galerie ( ロッテルダム、オランダ )  
 「Memories」 WAITINGROOM ( 東京 )
- 2021 「GIFT」 KOTARO NUKAGA ( 東京 )

### 主なグループ展

- 2005 「Free Range」 G3 Gallery ( ロンドン、英国 )  
 「Cocktail」 Nolia's Gallery ( ロンドン、英国 )
- 2006 「Stepsiblings」 Temporary Contemporary ( ロンドン、英国 )  
 「Amuse Art Jam 06」 京都文化博物館 ( 京都 )
- 2008 「GEISAI#11」 東京ビッグサイト ( 東京 )
- 2009 「シエル美術賞展 2009」 代官山ヒルサイドフォーラム ( 東京 )
- 2010 「トーキョーワンダーウォール 2010」 東京都現代美術館 ( 東京 )  
 「群馬青年ビエンナーレ 2010」 群馬県近代美術館 ( 群馬 )
- 2011 「アーツチャレンジ 2011」 愛知芸術文化センター ( 愛知 )  
 「D アートビエンナーレ」 Y++ Gallery Triwizart ( 北京、中国 )
- 2012 「第 5 回岡山県新進美術家育成 I 氏賞選考作品展」 天神山文化プラザ ( 岡山 )
- 2013 「VOCA 展 2013」 上野の森美術館 ( 東京 )  
 「アートの今：身体記憶」 高梁市歴史美術館 ( 岡山 ) 他
- 2014 「Collector's EYE」 柏市民ギャラリー ( 千葉 )  
 「第 11 回犬島時間」 ( 岡山 )
- 2015 「シブヤのタマゴ」 旧渋谷区庁舎 ( 東京 )
- 2017 「Après Toronto」 Laroche/Joncas ( モントリオール、カナダ )
- 2018 「MUSUBI」 Galerie Da-End ( パリ、フランス )  
 「LIGHT, NON-LIGHT」 hapterii ( ソウル、韓国 )
- 2019 「CYGNUS LOOP」 Gallery BATON ( ソウル、韓国 )  
 「ミテハナソウ」 佐倉市立美術館 ( 千葉 )
- 2020 「Taichung Opening」 GIN HUANG Gallery ( 台中、台湾 )
- 2021 「DOMESTICITY」 Volery Gallery ( ドバイ、アラブ首長国連邦 )

## Futura ( フューチュラ )

フューチュラ 2000 ( 本名 : レナード・ ヒルトン・ マクガー ) はグラフィティというものが公のアートギャラリーに認められ始めた時代のパイオニア的存在のアーティストであり、1970年代のストリートにおいて革命的なアプローチで知られ、文字 ( レター ) を基本とした分野に抽象性を紹介した。彼のキャンバス作品は 1980 年代に注目を浴び、ジャン=ミシェル・バスキア、キース・ヘリング、そしてケニー・シャーフとともに大きなアートムーブメントの立役者となる。フューチュラは『サブウェイ・スクール』と呼びニューヨークの地下鉄グラフィティを全て独学で学び、熟達した色彩感覚、幾何学的な構成、そして線はワシリー・カディンスキーの作品にたとえられる。友人でもあるドンディ・ホワイトやラメルジーとならび革新的で最新のダイナミズムを表現する作家として称えられている。

キャリア、方法論、そしてスタジオワークの起源である革命的な要素は、数十年経った今もなお純粋なものとして見ることができる。キャンバス、紙、彫刻、写真、グラフィックデザイン、そして大規模な壁画作品にわたるフューチュラの創造性は、結果として、動きのある構図、むき出しの質感、そして完全なる独創的な異彩を放っている。

作品はこれまでに、ロサンゼルス現代美術館 ( ロサンゼルス、アメリカ )、MoMA PS1 ( ニューヨーク、アメリカ )、ニューミュージアム・オブ・コンテンポラリーアート ( ニューヨーク、アメリカ )、ポイマンス・ヴァン・ペーニンゲン美術館 ( ロッテルダム、オランダ )、ファン・ギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ ) など有名な美術館やギャラリーで展示され、最近では 2018 年にロサンゼルス、2019 年にニューヨークにて開催されたビヨンド・ザ・ストリートに出展。積極的に商業的な活動や自身の商品ブランド(フューチュラ・ラボラトリーズ)を展開するアーティストとして、ルイ・ヴィトン、コム・デ・ギャルソン、シャネル、ナイキ、オフホワイト、そしてリーバイスなどとのブランドとコラボレーションを展開し、ザ・クラッシュなどのミュージシャンたちへアイコンックなアルバムのパッケージデザインや、DJ パフォーマンスのビジュアルをヴァージル・アブローに提供してきた。

## マリウス・ブルチーア

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.makigallery.com/artists/4084/>

Instagram : [@marius.bercea](https://www.instagram.com/marius.bercea)

1979 年、ルーマニアのクルジュ＝ナポカに生まれる。クルジュ＝ナポカの University of Art and Design において、美術学士号及び美術学修士号を取得。共産主義崩壊後のルーマニアでの生活の平凡さや不確実さを、暗い色調の下地に鮮やかな色彩で描いた、超現実的かつ大規模な絵画で知られる。エイドリアン・ガーニーやヴィクター・マンと並び、ルーマニア革命後にクルジュ＝ナポカに集結した画家の集団「クルジュ派」を代表する画家の一人とされる。

Hudson Valley Center for Contemporary Art (ピークスキル、アメリカ)、ARKEN Museum of Modern Art (スコヴァイ、デンマーク)、Taubman Museum of Art (ロアノーク、アメリカ)、Kistefos Museum (イエヴナーケル、ノルウェー)、Zabludowicz Collection (ロンドン、英国)、Olbricht Collection (ベルリン、ドイツ)、Space K Museum (ソウル、韓国) など、各国のパブリック・コレクションやプライベート・コレクションに作品が収蔵されている。

### 略歴

- 1979 ルーマニア、クルジュ＝ナポカ生まれ
- 2003 University of Art and Design (クルジュ＝ナポカ、ルーマニア) 美術学士取得
- 2005 University of Art and Design (クルジュ＝ナポカ、ルーマニア) 美術学修士取得

### 主な個展・二人展

- 2006 「It was Supposed to be so Easy」 Contemporary Art Museum; K.O.K.E.M. Gallery (メルクレア＝チュク、ルーマニア)
- 2006 「Soft Snapshots with Gentle Atmosphere」 Gallery Mie Lefever (ヘント、ベルギー)
- 2007 「Lapte gros and Stuff Like That」 H'art Gallery (ブカレスト、ルーマニア)
- 2007 「The Games We Played」 Eleven Fine Art Gallery (ロンドン、英国)
- 2008 「Yellow Side of Glamour/Melted Guidelines are passé」 ブルケンターール国立博物館 (シビウ、ルーマニア)
- 2008 「Under 18」 H'art Gallery (ブカレスト、ルーマニア)
- 2008 「Shorn lambs fall behind」 Gallery Mie Lefever (ヘント、ベルギー)
- 2009 「If Through the Copper Woods You Pass」 Eleven Fine Art Gallery

- ( ロンドン、英国 )
- 2009 「Time Will Tell」 Chung King Project ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2010 「Qui Vivra Verra」 François Ghebaly ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2011 「Remains of Tomorrow」 Blain|Southern ( ロンドン、英国 )
- 2012 「Concrete Gardens」 François Ghebaly ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2014 「Hypernova」 Blain|Southern ( ロンドン、英国 )
- 2016 「(On) Relatively Calm Disputes」 François Ghebaly ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2017 「A Full Rotation of the Moon」 Cluj Museum of Art  
( クルジュ = ナポカ、ルーマニア )
- 2018 「Time Can Space」 Blain|Southern ( ベルリン、ドイツ )
- 2020 「Thieves of Time」 François Ghebaly ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2021 「The Far Sound of Cities」 MAKI Gallery [ 天王洲 ] ( 東京 )

### 主なグループ展

- 2003 「Re:Location 1」 Casino Luxembourg ( ルクセンブルク )
- 2004 「Air-Bag」 Muzeul de Artă Cluj-Napoca ( クルジュ = ナポカ、ルーマニア )  
「Maps Without Roads」 Museum of Art Lucerne ( ルツェルン、スイス )
- 2005 「Blackout」 H'art Gallery ( ブカレスト、ルーマニア )  
「I Love Pictura」 Under Construction Space, Continental Hotel  
( クルジュ = ナポカ、ルーマニア )
- 2007 「Donau Documenta」 ( レーゲンスブルク、ドイツ )  
「PLUS 2」 Museum Küppersmühle of Modern Art ( デュースブルク、ドイツ )
- 2008 「15 Romanian and Hungarian painters」 Galeria Plan B  
( クルジュ = ナポカ、ルーマニア )  
「Under Natural Circumstances」 Center for Modern and Contemporary Art  
( デブレツェン、ハンガリー )  
「7 Parallel 7」 Museum of Young Art ( ウィーン、オーストリア )  
「Memorials」 Laika Art Space ( クルジュ = ナポカ、ルーマニア )
- 2009 4th Prague Biennale 2009 ( プラハ、チェコ )  
「Invisible Body, Conspicuous Mind」 Luckman Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )  
「Close to Home」 Galleria Davide Di Maggio ( ミラノ、イタリア )
- 2010 「Mircea Pinte Collection」 Muzeul de Artă Cluj-Napoca  
( クルジュ = ナポカ、ルーマニア )  
「After the Fall」 Hudson Valley Center for Contemporary Art  
( ピークスキル、アメリカ )、 Knoxville Museum of Art ( ノックスビル、アメリカ )  
「No New Thing Under the Sun」 Royal Academy ( ロンドン、英国 )

- 2011 「Palets」 Galerie Barbara Thumm (ベルリン、ドイツ)  
「Selektionseffekte」 Blain|Southern (ベルリン、ドイツ)
- 2012 「European Travellers」 Műcsarnok (ブダペスト、ハンガリー)  
「Referencing History」 Green Art Gallery (ドバイ、アラブ首長国連邦)  
「Nightfall. New Tendencies in Figurative Painting」  
Center for Modern and Contemporary Art (ブレッツェン、ハンガリー)  
「Crossing Cluj」 Art Market Budapest (ブダペスト、ハンガリー)
- 2013 「Nightfall. New Tendencies in Figurative Painting」 Galerie Rudolfinum  
(プラハ、チェコ)
- 2014 「Hotspot Cluj – New Romanian Art」 ARKEN Museum of Modern Art  
(スコヴァイ、デンマーク)  
「This Side of Paradise」 S|2 (ロンドン、英国)  
「Between Worlds」 Galerie ISA (ムンバイ、インド)  
「The Art School of Cluj」 Województwo Małopolskie (クラクフ、ポーランド)  
「The Romanian-Bulgarian Union. A Retrospective」  
National Museum of Contemporary Art (ブカレスト、ルーマニア)  
「Defaced」 Boulder Museum of Contemporary Art (ボルダー、アメリカ)
- 2015 「Love: The First of the Seven Virtues」 Hudson Valley Center for Contemporary Art  
(ピークスビル、アメリカ)  
「Young Collectors 2」 Elgiz Museum (イスタンブール、トルコ)  
「objects of desire」 Sabot Gallery (クルジュ = ナポカ、ルーマニア)  
「Appearance and Essence」 Art Encounters Timișoara/Arad  
(ティミショアラ、ルーマニア)  
「The Mapmaker's Dream」 Haines Gallery (サンフランシスコ、アメリカ)
- 2016 VOLTA New York (ニューヨーク、アメリカ)  
17th Art Biennial, Pancevo "SEE Art Gates: States of Reality"  
(パンチェヴォ、セルビア)
- 2017 「The Wanderers: Contemporary Painting From Cluj」 Richard Taittinger Gallery  
(ニューヨーク、アメリカ)  
「Upstream」 François Ghebaly (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2018 「Mythologies of a Sublime」 Pedro Cera (リスボン、ポルトガル)  
「Tradiții Active II」 Muzeul de Artă Cluj-Napoca (クルジュ = ナポカ、ルーマニア)  
「Romanian Eye」 Space K Museum (ソウル、韓国)
- 2019 「Mircea Cantor」 Musée de la Chasse et de la Nature (パリ、フランス)  
「Ex-East. Past and recent stories of the Romanian avant-gardes」  
Art Encounters Foundation (ティミショアラ、ルーマニア)  
「La Brique, The Brick, Cărămida」 La Kunsthalle Centre D'art Contemporain

- ( ミュルーズ、フランス )
- 「Bad Peach」 François Ghebaly ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2020 「A Peripheral Reverie」 Penske Projects ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 「Of refrains and liminal spaces」 Suprainfinit Gallery ( ブカレスト、ルーマニア )
- 「L.A. : Views」 MAKI Gallery [ 表参道 ] ( 東京 )
- 2021 「Travel Guide」 IOMO Gallery ( ブカレスト、ルーマニア )

## アダム・ペンドルトン

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <http://adampendleton.net/>

Instagram : [@pendleton.adam](https://www.instagram.com/pendleton.adam)

1984 年、バージニア州リッチモンドに生まれ、ニューヨークを拠点に活動している。ペンドルトンは絵画、コラージュ、インスタレーション、ビデオなど様々な媒体で制作し、言語を主要な材料として、テキストとイメージを再文脈化し、現代と歴史の出来事を再構築している。彼の作品は、ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館（ニューヨーク、アメリカ）、ハーレムスタジオ美術館（ニューヨーク、アメリカ）、カーネギー美術館（オークランド、アメリカ）、ダラス美術館（ダラス、アメリカ）、シカゴ現代美術館（シカゴ、アメリカ）、サンディエゴ現代美術館（サンディエゴ、アメリカ）、カナダ国立美術館（オタワ、カナダ）、テート・モダン（ロンドン、英国）など、数多くのパブリックコレクションに所蔵されている。

### 略歴

- 1984            アメリカ、バージニア州リッチモンド生まれ
- 2000-2002    Artspace Independent Study Program ( ピエトラサンタ、イタリア )

### 主な個展

- 2004    「Being Here」 WallSpace Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2005    「Deeper Down There」 Yvon Lambert Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2008    「Rendered in Black」 Indianapolis Museum of Contemporary Art  
( インディアナ、アメリカ )
- 2011    「Radio (ONE)」 Salina Art Center ( サライナ、アメリカ )
- 2012    「I'll Be Your」 Pace Gallery ( ロンドン、英国 )
- 2016    「Becoming Imperceptible」 Museum of Contemporary Art Denver  
( デンバー、アメリカ ) ほか巡回
- 2017    「shot him in the face」 KW Institute of Contemporary Art ( ベルリン、ドイツ )  
ほか巡回  
「Front Room: Adam Pendleton」 Baltimore Museum of Art ( ボルチモア、アメリカ )
- 2018    「List Projects: Adam Pendleton」 MIT List Visual Arts Center  
( ケンブリッジ、アメリカ )  
「Our Ideas」 Pace Gallery ( ロンドン、英国 )

- 2019 「NO THING: Pope L., Adam Pendleton」 Galerie Eva Presenhuber  
(チューリッヒ、スイス)  
「Who We Are」 Galerie Max Hetzler (ベルリン、ドイツ)
- 2020 「Adam Pendleton, curated by Franck Gautherot」 Le Consortium  
(ディジョン、フランス)  
「Elements of Me」 Isabella Stewart Gardner Museum (ボストン、アメリカ)
- 2021 「Who Is Queen?」 MoMA The Museum of Modern Art (ニューヨーク、アメリカ)
- 2022 Montreal Museum of Fine Arts (モントリオール、カナダ)

### 主なグループ展

- 2004 「When Contemporary Arts Speaks」 Indianapolis Museum of Contemporary Art  
(インディアナポリス、アメリカ)
- 2005 「Double Consciousness: Black Conceptual Art Since 1970」  
Contemporary Arts Museum (ヒューストン、アメリカ)
- 2007 「Sympathy for the Devil: Art and Rock and Roll Since 1967」  
Museum of Contemporary Art (シカゴ、アメリカ) ほか巡回
- 2008 「After 1968: Contemporary Art and the Civil Rights Legacy」 High Museum of Art  
(アトランタ、アメリカ) ほか巡回
- 2009 「The Generational: Younger The Jesus」 New Museum of Contemporary Art  
(ニューヨーク、アメリカ)  
「Encodings: Artist in Residence, 2008-2009」 Studio Museum in Harlem  
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2010 「Afro-Modernism: Journeys through the Black Atlantic」 Tate Liverpool  
(リヴァプール、英国)  
「Greater New York 2010」 P.S.1 Contemporary Art Center  
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2012 「Ecstatic Alphabets/Heaps of Language」 MoMA Museum of Modern Art  
(ニューヨーク、アメリカ)
- 2013 「Radical Presence: Black Performance in Contemporary Art」  
Studio Museum in Harlem (ニューヨーク、アメリカ) ほか巡回
- 2014 「Love Story – Anne and Wolfgang Titze Collection」  
21er Haus and Winter Palace, Belvedere Museum Vienna  
(ウィーン、オーストリア)
- 2015 「Adventures of the Black Square: Abstract Art and Society 1915-2015」  
Whitechapel Gallery (ロンドン、英国)  
56th Venice Biennale 「Personne et les autres」 Belgian Pavilion  
(ヴェネツィア、イタリア)

- 2017 「Public Movement: On Art, Politics, and Dance」 Moderna Museet  
( マルメー、スウェーデン )
- 2019 「Manifesto: Art X Agency」 Hirshhorn Museum and Sculpture Garden  
( ワシントン D.C.、アメリカ )
- 2021 「Grief and Grievance: Art and Mourning in America, curated by Okwui Enwezor」  
New Museum ( ニューヨーク、アメリカ )

## メル・ボックナー

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <http://www.melbochner.net/>

1940 年、アメリカのピッツバーグに生まれる。カーネギーメロン大学 (ピッツバーグ) にて美術学士を取得後、ノースウエスタン大学 (シカゴ) にて哲学を学ぶ。1964 年、ニューヨークに移り、ユダヤ博物館にて警備員として働く。1966 年、美術評論家のドーレ・アシュトンに採用され、スクール・オブ・ビジュアル・アーツ (ニューヨーク) で美術史を教える。同年、同校にて行った展示「必ずしも芸術として見られる必要のないワーキング・ドローイングとそのほかの視覚的なもの ( Working Drawings And Other Visible Things On Paper Not Necessarily Meant To Be Viewed As Art )」は、コンセプチュアル・アートの歴史において重要な展示となった。以降コンセプチュアル・アーティストとして写真、ドローイング、インスタレーションなどによる作品を発表し、1970 年代後半からは本格的に絵画制作を開始。2012 年には約半世紀に及ぶ創作活動を回顧する「I the Colour Changes」展をホワイトチャペルギャラリー (ロンドン) にて開催した。

### 略歴

- 1940 アメリカ、ピッツバーグ生まれ
- 1962 School of Art at Carnegie Mellon University (ピッツバーグ、アメリカ)  
美術学士取得
- 2005 School of Art at Carnegie Mellon University (ピッツバーグ、アメリカ) より  
名誉博士号を授与される

### 主な個展

- 1985 「Mel Bochner: 1973-1985」 Carnegie Mellon University Art Gallery  
(ピッツバーグ、アメリカ)
- 1993 Gallery 360 (東京)
- 1995 「Mel Bochner: Thought Made Visible, 1966-1973」 Yale University Art Gallery  
(ニューヘブン、アメリカ) ※La Société des Exposition du Palais des Beaux-Arts  
(ブリュッセル、ベルギー)、Städtische Galerie im Lenbachhaus  
(ミュンヘン、ドイツ) に巡回
- 1999 Akira Ikeda Gallery (横須賀)
- 2001 「Mel Bochner: Paintings and Sculptures」 Akira Ikeda Gallery (名古屋)
- 2011 「In the Tower: Mel Bochner」 National Gallery of Art (ワシントン DC、アメリカ)
- 2012 「Mel Bochner: If the Colour Changes」 Whitechapel Gallery (ロンドン、英国)

※Haus der Kunst ( ミュンヘン、ドイツ )、Fundação de Serralves  
( ポルト、ポルトガル ) に巡回

### 主なグループ展

- 1997 「Gravity-Axis of Contemporary Art」 国立国際美術館 ( 大阪 )
- 2004 「Traces」 京都国立近代美術館 ( 京都 )
- 「Whitney Biennial」 Whitney Museum of American Art ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2005 「Open Systems: Rethinking Art c.1970」 Tate Modern ( ロンドン、英国 )

## エヴァン・ホロウェイ

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <https://www.davidkordanskygallery.com/artist/evan-holloway>

1967 年、アメリカのカリフォルニア州ウィッティアに生まれる。カリフォルニア大学サンタクルーズ校にて美術学士、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) にて美術学修士を取得。彫刻家として、現在カリフォルニアを拠点に活動する。消費文化やポップイメージに対する遊び心あるアプローチに特徴があり、バッテリーやコンクリートブロックといった日常の中のあるふれたオブジェクトのイメージを取り入れた作品で知られる。ホイットニー美術館 ( ニューヨーク、アメリカ )、ロサンゼルス・カウンティ美術館 ( LACMA / ロサンゼルス、アメリカ )、ロサンゼルス現代美術館 ( MOCA / ロサンゼルス、アメリカ )、ハーシュホーン博物館と彫刻庭園 ( ワシントン D.C.、アメリカ ) など、数多くのパブリックあるいはプライベートコレクションに作品がおさめられている。

### 略歴

- 1967 アメリカ、カリフォルニア州ウィッティア生まれ
- 1989 カリフォルニア大学サンタクルーズ校 ( カルフォルニア、アメリカ ) 美術学士取得
- 1997 カリフォルニア大学ロサンゼルス校 ( UCLA ) 美術学修士取得

### 主な個展

- 1997 「Drum Box」 Room 702 ( ロサンゼルス、アメリカ )  
「Black Cabinet」 Marc Foxx ( サンタモニカ、アメリカ )
- 1999 Marc Foxx ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2001 Marc Foxx ( ロサンゼルス、アメリカ ) New Work, The Approach ( ロンドン、英国 )
- 2002 Raucci/Santamaria Gallery ( ナポリ、イタリア )  
Xavier Hufkens ( ブリュッセル、ベルギー )
- 2003 「A White Hunter」 Marc Foxx ( ロサンゼルス、アメリカ )  
「Evan Holloway, Gary Webb」 The Approach ( ロンドン、英国 )
- 2004 「New Work, Evan Holloway and Dave Muller」  
San Francisco Museum of Modern Art ( サンフランシスコ、アメリカ )  
「I Don't Exist」 Marc Foxx ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2005 「A Voyage to Laputa」 Xavier Hufkens ( ブリュッセル、ベルギー )
- 2006 「\$ocial Epi\$temology」 Harris Lieberman Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2007 「Scripted and Scored」 Raucci Santamaria ( ナポリ、イタリア )

- 2008 「Projects Series #35」 Pomona College Museum of Art ( クレアモント、アメリカ )
- 2009 The Approach ( ロンドン、英国 )
- 2010 「Experimental and Professional」 Harris Lieberman ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2011 「72」 Marc Foxx ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2012 「Post-process plunk」 The Approach ( ロンドン、英国 )  
 「Trees, Heads and Molds」 Xavier Hufkens ( ブリュッセル、ベルギー )
- 2014 「California Ras Shamra」 Xavier Hufkens ( ブリュッセル、ベルギー )
- 2016 David Kordansky Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2017 Paula Cooper Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2018 Xavier Hufkens ( ブリュッセル、ベルギー )
- 2019 「Outdoor Sculpture」 David Kordansky Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )

### 主なグループ展

- 2002 「Whitney Biennial」 Whitney Museum of American Art ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2006 「The Uncertainty of Objects & Ideas」 Hirshhorn Museum and Sculpture Garden  
 ( ワシントン D.C.、アメリカ )
- 2008 「2008 California Biennial」 Orange County Museum of Art  
 ( ニューポートビーチ、アメリカ )  
 「The Wizard of Oz」 CCA Wattis Institute for Contemporary Arts  
 ( サンフランシスコ、アメリカ )
- 2009 「Moby Dick」 CCA Wattis Institute for Contemporary Arts  
 ( サンフランシスコ、アメリカ )
- 2011 「All of this and nothing」 Hammer Museum ( ロサンゼルス、アメリカ )

### 主な受賞歴

- 2002 Louis Comfort Tiffany Foundation Award
- 2004 Penny McCall Foundation Award

## Mr. ( ミスター )

1969年キューパ生まれ。1996年、創形美術学校卒業。村上隆の一番弟子として20年以上を共に歩んでいる。日本の原風景とアニメ、ゲームキャラクター風の少女を描く。2019年にはファッションブランド「ミラ・ミカティ」とのコラボを行う。国内にとどまらず海外での個展開催、アートフェアへの出展など精力的に活動している。

### 個展

- 2022 「路地を抜けたらそこは、、、-City poetry-」 リーマン・モーピン・ギャラリー  
( ニューヨーク、アメリカ )
- 2021 「日常派」 HOW ART MUSEUM ( 上海、中国 )
- 2019 「A Call To Action」 ギメ東洋美術館 ( パリ、フランス )  
「ミスターのぶらり哀愁街角散歩」ペロタンギャラリー ( パリ、フランス )
- 2018 「みんな僕のこと、僕の絵の内容を勘違いしています。ノスタルジックで可愛らしく、日本のアニメ的で、って、それだけ。そうかもしれないけれど、僕はホントに僕の心に巣食う悪魔から逃げる為に毎日絵を描いてるし、その悪魔は、この僕の血そのものに宿っていて、逃げたいのだけれども逃げれない。仕方がないから絵を描いてるわけです。」ペロタンギャラリー ( 香港、中国 )
- 2017 「コンビニが近くにある所で宙を舞う」 リーマン・モーピン・ギャラリー  
( 香港、中国 )
- 2016 「僕の知っている街、東京の夕暮：まるで僕の胸の空洞のようだ」  
ペロタンギャラリー ( ソウル、韓国 )  
「Sunset in My Heart」 リーマン・モーピン・ギャラリー  
( ニューヨーク、アメリカ )
- 2015 「lost -めんたーる すけっち もぢふあいど-」 Hidari Zingaro ( 東京 )
- 2014 「Live On: Mr.'s Japanese Neo-Pop」 シアトル美術館 ( シアトル、アメリカ )
- 2013 「Sweet!」 ペロタンギャラリー ( 香港、中国 )
- 2012 「Metamorphosis: Give Me Your Wings」 リーマン・モーピン・ギャラリー  
( ニューヨーク、アメリカ )
- 2010 リーアンギャラリー ( デグ/ソウル、韓国 )
- 2008 「Nobody Dies ( 誰も死なない )」 ペロタンギャラリー ( パリ、フランス )  
リーマン・モーピン・ギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2007 リーマン・モーピン・ギャラリー ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2006 「Mr.」 リヨン現代美術館 ( リヨン、フランス )  
「忍~stealth」 ペロタンギャラリー ( マイアミ、アメリカ )
- 2004 「ISSEY x Mr.」 イッセイミヤケ by 滝沢直己 ( 東京 )  
「お疲れ様です」 小山登美夫ギャラリー ( 東京 )

- 2003 ペロタンギャラリー ( パリ、フランス )  
2001 「Venus#2」 ヴェダント画廊 ( シカゴ、アメリカ )

### グループ展

- 2021 「Healing」 ペロタンギャラリー ( 上海、中国 )  
「Healing × Healing 展」 カイカイキキギャラリー ( 東京 )  
2020 「Healing」 「Healing」 ペロタンギャラリー ( ソウル、韓国 )  
「Kaleidoscopes : Contemporary Portraiture 展」 ペロタンギャラリー ( 香港、中国 )  
2019 「美少女の美術史展」 MoNTUE 北師美術館 ( 台北、台湾 )  
2018 「めがねと旅する美術展」 青森県立美術館 ( 青森 )、島根県立石見美術館 ( 島根 )、  
静岡県立美術館 ( 静岡 )  
2017 「THE ドラえもん展 TOKYO 2017」 森アーツセンターギャラリー ( 東京 )  
「ヨコハマトリエンナーレ 2017 島と星座とガラパゴス」 横浜美術館 ( 横浜 )  
2015 「Animamix Biennale」 デグ美術館 ( デグ、韓国 )

## オースティン・リー

1983年、ネバダ州ラスベガス生まれ。ニューヨーク州ブルックリン在住。

オースティン・リーは、ポップアートの歴史を現代に拡張させるような絵画を制作することで注目を浴びている。アンディ・ウォーホルが写真のシルクスクリーンを使用して、絵画の実践と1960年代の画像作成技術を結びつけたように、リーはデジタル技術と伝統的な絵画や彫刻のプロセスを融合させることで、全く新しいタイプの現代アートの作品を制作している。リーはデジタルを「人間化」し、デジタル・スケッチから始まったイメージを、みずみずしい絵画や生き生きとした立体作品に落とし込んでいく。彼の作品は、デジタルと物理的な世界をつなぐ架け橋と言える。

### 略歴

2013 MFA, Painting, Yale School of Art, New Haven, CT

2002 BFA, Tyler School of Art, Philadelphia, PA

### 主な個展

2016 「Light Paintings」 BANK (上海、中国)

「Anxiety」 New Galerie (パリ、フランス)

2017 「Serious Works」 Kaikai Kiki (東京)

2018 「Constant Joy」 Mosaic Art Foundation (イスタンブール、トルコ)

「Tomato Can」 Peres Projects (ベルリン、ドイツ)

2019 「Paradise」 Carl Kostyál in collaboration with KALEIDOSCOPE, Spazio Maiocchi  
(ミラノ、イタリア)

「Compositions」 Mine Project (香港、中国)

「Feels Good」 Jeffrey Deitch (ニューヨーク、アメリカ)

2020 「Aah」 Peres Projects (ベルリン、ドイツ)

2022 「Human Nature」 M Woods (北京、中国)

### 主なグループ展

2019 「Punch」 curated by Nina Chanel Abney, Jeffrey Deitch, Los Angeles, CA;  
Jeffrey Deitch (ニューヨーク、アメリカ)

2018 「The Second Self」 Peres Projects (ベルリン、ドイツ)

「Horses」 V1 Gallery (コペンハーゲン、デンマーク)

「Post Analog Painting II」 The Hole (ニューヨーク、アメリカ)

「Drawing Island」 Journal Gallery (ニューヨーク、アメリカ)

2021 「The Shoo Sho」 curated by Julie Curtiss, Anton Kern Gallery's WINDOW

( ニューヨーク、アメリカ )

「American Psyche: Austin Lee & Mark Thomas Gibson」 Carl Kostyál Gallery

( スtockホルム、スウェーデン )

「Nature Morte」 The Hole ( ニューヨーク、アメリカ )

2020 「Wild Metropolis」 Powerlong Museum, curated by Xu Zhen and Lu Pingyuan

( 上海、中国 )

「The Future」 presented by Gagosian and Jeffrey Deitch (オンライン)

「Friends and Friends of Friends - Artistic communities in the age of social media」

Schlossmuseum Linz ( リンツ、オーストリア )

「Collective Care: A House with Many Guests」 M Woods Museum ( 北京、中国 )

### 主な所蔵先

High Museum of Art ( アトランタ、アメリカ )

Moderna Museet ( スtockホルム、スウェーデン )

M WOODS Museum ( 北京、中国 )

Zabludowicz Collection ( ロンドン、英語 )

## ネイト・ロウマン

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <http://natelowman.net/>

1979 年、アメリカのネバダ州ラスベガス生まれ、ニューヨーク在住。

### 略歴

1997-2001 New York University ( ニューヨーク、アメリカ ) 理学士取得

主な個展や主なグループなどの詳細は下記よりご確認ください。

[https://www.davidzwirner.com/-/media/davidzwirner/artists/nate-lowman/2022\\_dz\\_nl\\_cv\\_feb.pdf?la=en&rev=c5b80994ccc2432e80451ebabfddf6c4&hash=A9C7F2EDB814BB71FDD4CAC534925662](https://www.davidzwirner.com/-/media/davidzwirner/artists/nate-lowman/2022_dz_nl_cv_feb.pdf?la=en&rev=c5b80994ccc2432e80451ebabfddf6c4&hash=A9C7F2EDB814BB71FDD4CAC534925662)

## カシン・ローン

### 関連 URL・ SNS 情報 / Related link・ Social Media Information

Web : [http://gallery-kaikaikiki.com/2020/10/bio\\_kasing\\_lung/](http://gallery-kaikaikiki.com/2020/10/bio_kasing_lung/)

Instagram : [@kasinglung](https://www.instagram.com/kasinglung)

Twitter : [@kasinglung](https://twitter.com/kasinglung)

1972 年、香港に生まれる。イラストレーターとして 2011 年より香港の How2Work 社とのコラボレーションを開始、絵本やコレクタブル・フィギュアのシリーズをリリースする。2013 年、中国語で書かれた初の絵本『My Little Planet』を台湾で出版。2014 年には児童文学作家のブリジット・ミンネとの共作による絵本、『Lizzy Wil Danssen ( リジーはダンスがしたい )』をベルギーの出版社 De Eenhoorn より刊行して評判となり、ヨーロッパやアジアの各国で翻訳出版された。

2015 年、北欧神話に強い影響を受けた物語シリーズ『the Monsters』の制作に着手。同名のフィギュアのシリーズを How2Work よりリリースし、なかでもウサギ耳のキャラクター「Labubu ( ラブブ )」は絶大な人気を博し、これまでに 300 を超える色と形、サイズでリリースされている。

近年は香港とベルギーを活動の拠点としてペインティング作品の制作に注力し、2020 年、初の個展となる「THIS IS WHAT IT FEELS LIKE」を東京の Hidari Zingaro で開催した。

### 略歴

1972 香港生まれ

### 主な個展

- 2012 「Little Planet Network」 誠品書店 ( 台中、台湾 )
- 2013 「A Toys Forest」 恒基兆業商場 ( 香港、中国 )
- 2014 「My Little Planet」 Paradise ( 台北、台湾 )
- 2016 「My God It's Full of Stars」 靠边走芸術空間 ( 台北、台湾 )
- 2017 「De Kleuren Monsters」 海港城美術館 ( 香港、中国 )  
「The Wild Things Monsters」 Paradise ( 台北、台湾 )
- 2018 「Kasing's Room 237」 靠边走芸術空間 ( 台北、台湾 )  
「The Monsters Store」 ポップアップストア ( 台北、台湾 )
- 2020 「THIS IS WHAT IT FEELS LIKE」 Hidari Zingaro ( 東京 )

### 主なグループ展

- 2011 「One Day Children」 新光三越 ( 台中、台湾 )
- 2015 「How Little World」 台北トイフェスティバル ( 台北、台湾 )
- 2019 「The Monsters and The Cosmic Starts」 JPS Art Gallery ( 東京 )  
「Another Side of Tezuka Exhibition」 The Little Hut ( 台北、台湾 )
- 2020 「Unwrapped」 Area 36 by JPS Art Gallery ( 東京 )  
「Healing」 Perrotin ( ソウル、韓国 )  
「Healing」 Perrotin Matignon ( パリ、フランス )
- 2021 「Healing」 Perrotin ( 上海、中国 )  
「Healing x Healing」 Kaikai Kiki Gallery ( 東京 )

## ジェニファー・ ロックリン

### 関連 URL・ SNS 情報

Web : <http://www.jennifer-rochlin.com/>

Web : <https://www.makigallery.com/artists/3623/>

Instagram : [@jenniferrochlin](https://www.instagram.com/jenniferrochlin)

1968 年生まれ、アメリカのメリーランド州ボルチモアで育ち、現在、ロサンゼルスを拠点に活動。1999 年にシカゴ美術館附属美術大学で絵画の修士を取得したが、後に地元の学校で陶芸授業のプログラム開発に携わり、それをきっかけにキャンバスから粘土に描くことを実験的に始めた。三次元に形づくられた器が彼女の描く物語にどのように影響するのが徐々に興味をもつようになり、やがてそれらは彼女の描く物語の支持体となった。器の形はコイル状にぐるぐるととぐろを巻くように徐々に積み上げられ、そこには確実にロックリンの手仕事の跡が残されている。彼女のつくる器は独自の形をしており、ときにモチーフと呼応して三次元の空間に物語を紡いでいく。モチーフとしてよく取り上げられるのは、カリフォルニアのみずみずしい生命力をもつ植物や動物のほか、ポップカルチャー、装飾文様、そして個人的な記憶、最近では、ポッティチェリの「ヴィーナスの誕生」のように美術史からも引用し、世界中の人が知っている素晴らしい価値に新しい文脈をもたらしている。平面作品である絵画と立体作品としての陶器、両方の良き面を引き出したロックリンの作品は、その豊かな表現が大きな評価を受けている。

### 略歴

- 1968 アメリカ、メリーランド州ボルチモア生まれ
- 1991 コロラド大学ボルダー校（コロラド州ボルダー、アメリカ）美術学士取得
- 1998 ベルリン芸術大学（ベルリン、ドイツ）秋学期交換留学
- 1999 シカゴ美術館附属美術大学（イリノイ州シカゴ、アメリカ）美術学修士取得  
ロサンゼルス在住、活動中

### 主な個展・二人展

- 2020 「California Dreamin' -"On such a winter's day"」 MAKI Gallery [表参道]（東京）  
「Jennifer Rochlin」 The Pit（カリフォルニア州グレンデール、アメリカ）  
「Clay is Just Thick Paint」 Greenwich House Pottery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2019 「Superbloom」 Geary（ニューヨーク、アメリカ）
- 2018 「Wild is the Wind」 The Pit（カリフォルニア州グレンデール、アメリカ）  
「Paintings and Pots」 with Mari Eastman, The Green Gallery

- ( ウィスコンシン州ミルウォーキー、アメリカ )  
 「KISS KISS KISS」 Lefebvre & Fils Gallery ( パリ、フランス )  
 2016 「Faint Heart」 South Willard ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 2014 「Window Project」 site specific installation, Nathalie Karg Gallery  
 ( ニューヨーク、アメリカ )  
 2013 「Crystal Eaters」 with Laurie Nye, Statler Waldorf Gallery  
 ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「Cats and Bats」 South Willard ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 2007 「Jennifer Rochlin / Gene Moreno」 curated by Nicolas Frank, Institute of Visual Arts  
 ウィスコンシン大学ミルウォーキー校  
 ( ウィスコンシン州ミルウォーキー、アメリカ )  
 「Falling Together / Holding Apart」 Black Dragon Society  
 ( ロサンゼルス、アメリカ )

### 主なグループ展

- 2020 「Mass Ornament: Pleasure, Play, and What Lies Beneath」 curated by Alison M. Gingeras, South Etna Montauk ( ニューヨーク州モントーク、アメリカ )  
 「Riders of the Red Horse」 The Pit ( カリフォルニア州グレンデール、アメリカ )  
 「So Far」 LA LOMA Projects ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 2019 「L.A. On Fire」 curated by Michael Slenske, Wilding Cran Gallery  
 ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「Calculating Infinity」 curated by Adam D. Miller, Guerrero Gallery  
 ( サンフランシスコ、アメリカ )  
 「Household Effects」 LA LOMA Projects ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 2018 「The Party」 curated by Ali Subotnick, Anton Kern Gallery  
 ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「How They Ran」 Over the Influence ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「Greater Than L.A.」 Desert Flowers ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「Airtight Garage」 Big Pictures LA ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 2017 「In Order of Appearance」 curated by Dylan Palmer, Charlie James Gallery  
 ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「GERANIUM」 Stems Gallery ( ブリュッセル、ベルギー )  
 「Of a well-sucked apricot pit」 Tif Sigfrids ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「FIGURED OUT!」 Andrew Rafacz Gallery ( シカゴ、アメリカ )  
 「The Brightsiders」 curated by Adam D. Miller, Verge Center for the Arts  
 ( カリフォルニア州サクラメント、アメリカ )

- 「Forest on the Edge of Time」 The Pit ( カリフォルニア州グレンデール、アメリカ )  
 「Amplified Presence」 THE SCRANCH CABIN  
 ( カリフォルニア州ワンダーバレー、アメリカ )  
 「The Edge」 T Project ( カリフォルニア州ポートランド、アメリカ )
- 2016 「Snorkel Dreams」 Machine Project ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「A Plot of land」 Dutton ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「Sex Pot」 サンディエゴ大学 ( サンディエゴ、アメリカ )  
 「All Right」 Collaboration with Ryan Conder, Redling Fine Art  
 ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2015 「Making Strategies」 Geary ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「Group Show」 Nathalie Karg Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2014 「Terra Firma」 Reynolds Gallery ( ヴァージニア州リッチモンド、アメリカ )  
 AxS Festiva 「I The Machine Project Field Guide to The Gamble House」  
 ( カリフォルニア州パサデナ、アメリカ )  
 「Another Cats Show」 356 Mission ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2014 「Thanks for the Mammaries」 ForYourArt ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「If you throw a spider out the window, does it break?」  
 curated by Adrienne Rubenstein, Brennan and Griffin Gallery  
 ( ニューヨーク、アメリカ )
- 2013 「ArtForum Ad」 Brennan and Griffin Gallery ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「Snail Salon」 curated by Adrienne Rubenstein, Regina Rex  
 ( ブルックリン、アメリカ )  
 「The Cat Show」 White Columns ( ニューヨーク、アメリカ )  
 「356 Sculptures」 356 Mission ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2012 「MKE-LAX」 Milwaukee Institute of Art and Design [MIAD], Frederick Layton Gallery  
 ( ウィスコンシン州ミルウォーキー、アメリカ )  
 Venice Beach Biennial 「Made in LA」 ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2011 「Home Show」 Santa Barbara Contemporary Arts Forum  
 ( サンタバーバラ、アメリカ )  
 「The Open Daybook」 Los Angeles Contemporary Exhibitions  
 ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2009 「Group Show」 Sister Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「Kimono my house」 Artist Curated Projects ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「1999」 China Art Objects ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2008 「The Black Dragon Show」 Black Dragon Society ( ロサンゼルス、アメリカ )  
 「Tapestry」 Karen Lovegrove Gallery ( ロサンゼルス、アメリカ )
- 2007 「Warhol and . . .」 Kantor Gallery ( ビバリーヒルズ、アメリカ )

- 2005 「Gerald Davis, Charles Irvin, Jennifer Rochlin」 Shane Campbell Gallery  
(シカゴ、アメリカ)  
「Christmas in July」 Black Dragon Society (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2004 「Group Show」 Pruess Press (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2001 「Hot Sheets」 Optimistic Gallery (シカゴ、アメリカ)
- 2000 「Screenings」 FGA Space (シカゴ、アメリカ)  
Evanston Biennial (イリノイ州エバンストン、アメリカ)
- 1999 「Squirrel on Parade」 Public Art Installation (シカゴ、アメリカ)  
「Crashpad」 The Inn of Chicago (シカゴ、アメリカ)  
「Art Windows」 Jil Sander Store (シカゴ、アメリカ)  
「Graduate Exhibition」 School of the Art Institute of Chicago [SAIC]  
(シカゴ、アメリカ)  
「Kunstwerk」 Hochschule Der Kunste (ベルリン、ドイツ)
- 1998 「Emerging Artists」 Terra Museum of American Art (シカゴ、アメリカ)  
「5 person show」 Gallery 2 (シカゴ、アメリカ)  
「Textuality」 Gallery 2 (シカゴ、アメリカ)  
Evanston Biennia (イリノイ州エバンストン、アメリカ)
- 1997 「Notations」 School of the Art Institute of Chicago [SAIC] (シカゴ、アメリカ)  
「Hotel Show」 Essex Inn (シカゴ、アメリカ)
- 1996 「Group Show」 Art Explosion (サンフランシスコ、アメリカ)  
「Juried Show」 Collision Gallery (サンフランシスコ、アメリカ)

### 受賞歴

- 2015 Individual Artist Grant, The Belle Foundation  
2007 The Durfee Foundation ARC grant

### レジデンス・プログラム

- 2019 イタリア、ウンブリア州、チヴィテッラ